



OpenLab CDS ChemStation Edition

ワークステーションインストールガイド

注意

文書情報

部品番号: M8301-96092 Rev. D
エディション 05/2020

著作権

© Agilent Technologies, Inc. 2010-2020

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn

ソフトウェアリビジョン

このガイドは、OpenLab CDS ChemStation Edition のリビジョン C.01.10 に対応しています。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

米国政府の制限付き権利について：連邦政府に付与されるソフトウェアおよび技術データに係る権利は、エンドユーザーのお客様に通例提供されている権利に限定されています。Agilent は、ソフトウェアおよび技術データに係る通例の本商用ライセンスを、FAR 12.211 (Technical Data) および 12.212 (Computer Software)、並びに、国防総省に対しては、DFARS 252.227-7015 (Technical Data -Commercial Items) および DFARS 227.7202-3 (Rights in Commercial Computer Software or Computer Software Documentation) の規定に従い提供します。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**警告**を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

本インストールガイドでは、Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition ワークステーションのインストールについて説明しています。

表 1 このドキュメントで使用される用語と略語

用語	説明
AIC	Agilent 機器コントローラ
CDS	クロマトデータシステム
ChemStation	OpenLab CDS ChemStation Edition
コントロールパネル	OpenLab Control Panel
Microsoft コントロールパネル	Microsoft Windows オペレーティングシステムの一部
Secure Workstation	Secure Workstation for OpenLab CDS ChemStation Edition

1 PC の準備

この章では、Agilent が提供する以外の PC の設定方法を説明します。Agilent 提供の PC バンドルには、サポートされている Windows オペレーティングシステムがプリインストールされ、パフォーマンスが最適になるように設定されています。Agilent 以外の PC の場合、パフォーマンスを最適化するためにマニュアルで設定変更を行う必要があります。

2 OpenLab CDS ChemStation Edition のインストール

ソフトウェアは、OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラで自動的にインストールされます。このツールにより、必要なコンポーネントがすべてインストールされます。

3 インストール後のタスク

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。

4 オプションの手順

この章では、追加ドライバーとソフトウェアウィザードに関する情報、Software Verification Tool に関する情報、およびその他の便利な手順に関する情報を提供します。

5 ライセンス

この章では、ライセンスを取得してインストールする方法に関する情報を記載しています。

6 ChemStation エディション C.01.10 へのアップグレード

この章では、ChemStation C.01.07 SR3 以降からのアップグレードについて説明します。これより前の ChemStation リビジョンからアップグレードする場合は、最初に C.01.07 SR3 にアップグレードしてください。ChemStation A.0x または B.0x からのアップグレードについては、移行ガイド (CDS_CS-data-Migration.pdf) を参照してください。

7 ソフトウェアのアンインストール

この章では、OpenLAB のアンインストールウィザードを使用したアンインストールについての情報が書かれています。また、アンインストール後のタスクについても説明しています。このタスクは、同じコンピューターに ChemStation を再インストールする場合に必要です。

8 トラブルシューティング

この章では、トラブルシューティングのヒントをいくつか記載しています。

目次

- 1 PCの準備 7
 - Windowsのインストールと更新 8
 - サイトプレパレーションツールの実行 11
 - サードパーティツールのインストールと設定 13
 - プリンターの設定 18
 - OpenLab CDS ChemStation Editionのインストールを開始する前に 20
 - オペレーティングシステムの設定 23
- 2 OpenLab CDS ChemStation Editionのインストール 36
 - インストールの準備 37
 - インストールウィザードの実行 38
 - 次の作業内容 41
 - スクリプトインストール 42
- 3 インストール後のタスク 48
 - ChemMainのファイアウォール設定 49
 - ウイルス対策プログラムの設定 50
- 4 オプションの手順 52
 - 追加ソフトウェアとドライバーのインストール 53
 - ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーションの実行 54
 - ワークステーションからネットワークワークステーションへの変換 55
 - オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上 57
 - セキュアファイルI/Oを用いたChemStationフォルダーの保護 58
 - PC名の変更 59
 - 指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする 60
 - パブリックフォルダーへのショートカットの追加 61

- 5 ライセンス 62
 - OpenLab ライセンスについて 63
 - ライセンスの取得 65
 - ライセンスのインストール 69

- 6 ChemStation エディション C.01.10 へのアップグレード 70
 - アップグレードの計画 71
 - クラシック機器ドライバーの RC.NET への変換 74
 - ライセンスアップグレード 77
 - ワークステーションのアップグレード 80

- 7 ソフトウェアのアンインストール 82
 - アンインストールについて 83
 - OpenLab CDS アンインストールウィザードの実行 84

- 8 トラブルシューティング 85
 - ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション 86

- 9 付録 89
 - 営業およびサポートのお問い合わせ先 90

1

PC の準備

Windows のインストールと更新	8
サイトプレパレーションツールの実行	11
サードパーティツールのインストールと設定	13
Adobe Acrobat Reader のインストールと設定	13
.NET Framework のインストール	16
Keysight IO Libraries Suite のインストール	17
プリンターの設定	18
ネットワークプリンターをローカルプリンターとして追加	19
OpenLab CDS ChemStation Edition のインストールを開始する前に	20
オペレーティングシステムの設定	23
OpenLab CDS ChemStation Edition 用の Windows コンフィグレーションチェッカー	23
マニュアルコンフィグレーション手順	24
LC/MS システムと CE/MS システムのセキュリティ設定の編集	34

この章では、Agilent が提供する以外の PC の設定方法を説明します。Agilent 提供の PC バンドルには、サポートされている Windows オペレーティングシステムがプリインストールされ、パフォーマンスが最適になるように設定されています。Agilent 以外の PC の場合、パフォーマンスを最適化するためにマニュアルで設定変更を行う必要があります。

Windows のインストールと更新

- 1 Microsoft インストールメディアまたは社内の IT 部門から提供された正規の PC イメージメディアから Windows オペレーティングシステムをインストールしてください。セットアップ中に、コンピュータ名と管理者のパスワードの指定とネットワークの設定を行います。システムを既存のドメインに参加させることも、ワークグループモードに設定することもできます。
- 2 Windows 10 Pro ユーザーの場合、社内の IT 部門のガイドラインに従って、最新の Windows 10 エディションに更新してください。
- 3 システムへのウィルス感染を防ぐために、ウィルス対策プログラムをインストールします。『OpenLab CDS ChemStation Edition ハードウェアおよびソフトウェアの要件ガイド』（CDS_CS_HW-SW-Requirements.pdf）の「ファイアウォール設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

注記

ウィルス対策プログラムを実行すると、コンピューターの動作とパフォーマンスが影響を受けることがあります。ウィルススキャナによっては、OpenLab CDS と併用すると問題が生じる可能性があります。Symantec Endpoint Protection 14.0 MP2 および Microsoft Security Essentials はテスト済みです。

- 4 Microsoft コントロールパネルで [システム] > [Windows ライセンス認証] の [プロダクトキーの変更] をクリックします。有効な値を入力して Windows をライセンス認証します。
- 5 [Windows Update] の [更新プログラムの確認] をクリックして更新プログラムを確認し、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。ChemStation をインストールする前にすべての Windows 更新プログラムが実行されていることを確認してください（更新設定は御社の IT 部門で一元的に設定できます）。

注記

この設定は、データ測定中にコンピューターが再起動し、データが失われるのを防ぐために必要です。

- 6 Windows 更新プログラムを無効にするか延期します（更新設定は御社の IT 部門で一元的に設定できます）。
 - Windows 7：
 - a Microsoft コントロールパネルで、**[Windows Update]** を選択します。
 - b **[設定の変更]** を選択します。
 - c **[重要な更新プログラム]** セクションで **[更新プログラムを確認しない]** を選択します。他のオプションの選択をすべて解除します。
 - d 更新後にコンピュータを再起動します。
 - Windows 10：
 - a **[設定]** > **[更新とセキュリティ]** で **[詳細オプション]** を選択します。
 - b 更新プログラムを延期する日数を入力します。
- 7 Windows 10 および Windows 7 のみ：リモート設定を行うには：Microsoft コントロールパネルで、**[システム]** > **[リモート設定]** を選択します。**[リモート]** タブ：
 - **[リモートアシスタンス]** セクションの **[このコンピューターへのリモートアシスタンス接続を許可する]** チェックボックスをオフにします。
 - **[リモートデスクトップ]** セクションで、**[このコンピューターへの接続を許可しない]** を選択します。
- 8 Microsoft コントロールパネルの **[日付と時刻]** で：地域のタイムゾーンを選択します。
- 9 Microsoft コントロールパネルの **[地域]**（Windows 10 および Windows 7 の場合は **[地域と言語]**）：
 - a 地域のフォーマットオプションは、ドロップダウンリストから **[日本語（日本）]** に設定してください。
 - b **[英語（米国）]** 以外の地域の形式を使用している場合は、次の設定が必須です。この設定は、**[追加の設定...]** ボタンをクリックすることで定義できます。
 - 小数点の記号 = .（ピリオド）
 - 桁区切り記号 = ,（コンマ）
 - 区切り記号 = ,（コンマ）

10 Microsoft コントロールパネルの **【管理】** タブの **【地域】**（Windows 10 および Windows 7 の場合は **【地域と言語】**）：

- a **【Unicode 対応でないプログラムの言語】** セクションで、**【システムロケールの変更...】** をクリックします。
- b ドロップダウンリストから **【日本語（日本）】** を選択します。

注記

英語、日本語、または中国語のオペレーティングシステムを使用している場合は、システムロケールを変更しないでください。

サイトプレパレーションツールの実行

- 1 USB メディアまたは指定したフォルダーからインストーラを実行します。
[プラン] 画面から、[システムコンフィグレーションチェッカー] を選択します。
- 2 [サイトプレパレーションツール] が開きます。ドロップダウンリストから [OpenLAB CDS ChemStation Edition C.01.XX] を選択します。
- 3 [OK] を選択します。
- 4 1 ページ目の [Contact Information - System details] の空欄を入力します。
 - [System Location] フィールド
 - [System Information] フィールド
 - [Configuration] フィールド
- 5 システムの詳細を確認して、必要事項を入力します。システムは指定されたパスに従います。
- 6 画面の上部左隅の緑のチェックマークアイコンを選択して、システムチェックを開始します。Summary レポートに、各チェックカテゴリの結果が表示されます。結果は、[Pass]、[Warning]、[Critical Warning] または [Fail] と表記されます。

結果が [Fail] となった場合、修正してからインストールを行ってください。[Critical Warning] や [Warning] の場合も、続行する前にできる限り解決することをお勧めします。

注記

ファイアウォールがセキュリティソフトウェアに制御されている場合、セキュリティ上の制限により、サイトプレパレーションツールがファイアウォールの設定値を読み取ることができず、ファイアウォールの設定に関して「Fail」ステータスが表示されてしまいます。

この場合は、ファイアウォールが無効になっていることを確認し、サイトプレパレーションツールのレポートに手作業でステータスを入力してください。

- 7 レポートの詳細を表示するには、次のリンクを選択してください：
[System Hardware Details]、[Operating System and Software Details]、または [Manual Verification Required]。
- 8 レポートを保存するには、画面の上部左にある [レポートの保存] アイコンを選択します。

PCの準備

サイトプレパレーションツールの実行

- 9 Agilent ソフトウェアシステムをインストールする PC を評価および検証するには、保存したレポートを電子メールで Agilent またはサービス関係者に送信してください。

サードパーティツールのインストールと設定

一定のサードパーティツールを PC にインストールおよび設定する必要があります。OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラを実行する場合は、これらのツールの一部を [インストール] 画面から直接インストールできます。

Adobe Acrobat Reader のインストールと設定

現在インストールされている Acrobat Reader のバージョンをアンインストールする必要があるかを確認します。

- 1 Acrobat Reader がインストールされている場合は、そのバージョンを確認します。
 - a Acrobat Reader を開きます。
 - b [ヘルプ] > [Adobe Acrobat Reader について] を選択します。
- 2 バージョン番号は複数のレンジで構成されています。3 番目のレンジの最初の 2 桁で Continuous トラックか Classic トラックかを判別します。

Version 2017.008.30.051

20 = Continuous トラック

30 = Classic トラック

注記

古いバージョンの Acrobat Reader (2016 以前、XI 以前) または Continuous トラックバージョンの Reader (Acrobat Reader 2017 を含む) がシステムにインストールされている場合は、最初にアンインストールする必要があります。アンインストールせずにインストールをすると Acrobat Reader のバージョンが自動更新されるようになります。

Adobe Acrobat Reader 2017 (Classic Track) のインストール:

- 1 [サードパーティツール] の [Adobe PDF Reader] を選択します。
- 2 Acrobat Reader のセットアップ画面が表示されます。[インストール] をクリックして続行します。

- 3 Acrobat Reader が正常にインストールされたら、**【完了】** をクリックしてセットアップ画面を終了してください。
ChemStation インストールメディアから Acrobat Reader をインストールすることもできます。Disk1¥Tools¥Adobe Reader にあります。
AcroRdr_MUI.bat を実行し、Adobe Reader セットアップウィザードの説明に従います。
- 4 新しくインストールした Adobe Acrobat Reader を開いて、ライセンス契約画面を確認します。確認を求められるのは最初の 1 回だけです。

Windows での Adobe Acrobat Reader の設定：

- 1 Adobe Acrobat Reader をデフォルトの PDF ビューアーとして設定します。
 - a **Windows 7**：Microsoft コントロールパネルで、**【既定のプログラム】** > **【既定のプログラムの設定】** の順に移動し、リストから Adobe Acrobat Reader を選択して **【すべての項目に対し、規定のプログラムとして設定する】** をクリックします。
または
Windows 10：**【設定】** > **【アプリ】** > **【既定のアプリ】** の順に移動し、**【ファイルの種類ごとに既定のアプリを選ぶ】** を選択します。リストの **【.pdf】** へ移動し、**【Adobe Acrobat Reader】** をデフォルトとして選択します。
 - b Adobe Acrobat Reader をデフォルトの PDF ビューアーとして選択します。
- 2 Adobe 更新サービスを無効にします。
 - a Windows **【スタート】** メニューで、**【サービス】** を検索します。**【サービス】 アプリ** をクリックします。
 - b **【Adobe Acrobat Update Service】** を停止します。
 - c サービスのプロパティで、**【スタートアップの種類】** を **【手動】** に設定します。

正しく Adobe Acrobat Reader が設定されているかの確認：

- 1 Acrobat Reader で **【編集】** > **【環境設定】** をクリックします。
- 2 **【一般】** カテゴリを選択します。
 - a **【同じウィンドウで新しいタブとして文書を開く】** チェックボックスがオフになっていることを確認します。チェックが入っていると、ChemStation の **【レポートビューアー】** の動作に支障をきたす恐れがあります。

.NET Framework のインストール

.NET 3.5 のインストール

システムに .NET 3.5 がインストールされていない場合、インストールウィザードによって自動的にインストールされます。事前にインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 1 Microsoft コントロールパネルを選択します。

Windows [スタート] メニューで、**[プログラムとファイルの検索]** フィールドに「コントロールパネル」と入力します（または、[Win+R] を押して「コントロールパネル」と入力します）。コントロールパネルビューにすべての項目を表示するには、**[表示方法]** フィールドの **[小さいアイコン]** を選択します。

- 2 **[プログラムと機能]** へ移動します。
- 3 **[Windows の機能の有効化または無効化]** へ移動します。
- 4 .NET 3.5 を以下のように有効にします。

これには、インターネット接続が必要です。

- Windows 10 の場合： **[.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)]** ノードを展開します。
- Windows 7 の場合： **[Microsoft .NET Framework 3.5.1]** ノードを展開します。

どちらの場合も、**[Windows Communication Foundation 非 HTTP アクティビ化 (Windows Communication Foundation Non-HTTP Activation)]** チェックボックスをオンにします。

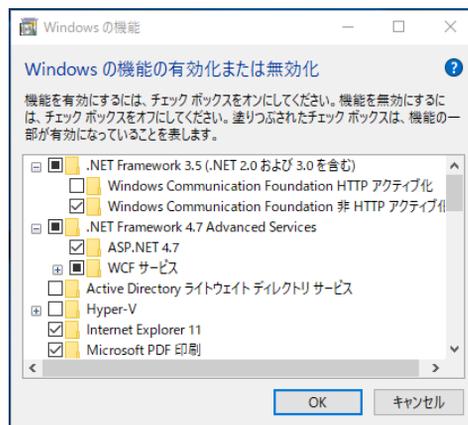


図1 .NET 3.5 を有効にする (Win 10)

注記

これが予想どおりに機能しない場合や、コンピュータがインターネットにアクセスできない場合は、Windows インストールメディアから .NET 3.5 をインストールしてください。Windows 10 の場合、<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2734782> の詳細 10 を参照してください。

インストールメディアがない場合は、<https://www.microsoft.com/ja-jp/software-download/windows10> の説明に従って作成してください。

.NET 4.7 のインストール

システムに .NET 4.7.2 がインストールされていない場合、インストールウィザードによって自動的にインストールが開始されます。.NET 4.7.2 をマニュアルでインストールすると、Windows によりインストールファイルへの書き込みアクセスが要求されます。このため、USB メディアからの直接インストールはできません。

- 1 フォルダ `Disk1\Tools\DotNet4.7` をローカルディスクにコピーします。
- 2 `dotNetFx_Full_x86_x64.bat` を実行します。
- 3 インストールウィザードに従います。
- 4 コンピュータを再起動します。

Keysight IO Libraries Suite のインストール

IO Libraries は、LC/MS および CE/MS 機器の場合のみ必要です。

IO Libraries をインストールする：

- 1 インストーラから、**[インストール]** を選択します。
- 2 **[サードパーティツール]** の **[Keysight IO Libraries]** を選択します。
Keysight IO Libraries のセットアップ画面が開きます。
- 3 **[インストール]** をクリックして続行します。
- 4 Keysight IO Libraries が正常にインストールされたら、**[完了]** をクリックしてセットアップ画面を終了します。

プリンターの設定

通常使うプリンター

デフォルトプリンターがWindowsでコンフィグレーションされていることを確認してください。ChemStationを実行するすべてのWindowsユーザーには、ユーザープロファイルで設定されたプリンターが必要です。プリンターが接続されていなくても、プリンタードライバは物理プリンター用にしてください。PDFやXPSライターなどのファイルへのプリンター設定では不十分です。

これは、Microsoftコントロールパネルから行います。デフォルトプリンターがコンフィグレーションされていない場合、以下の問題が発生する可能性があります。

- レポートプレビューの出力に失敗する。
- **[クリップボードへコピー]** メニューでエラーが発生する。
- **[カスタムレポート表示]** の新規テンプレートで問題が発生する。

PDF XChange プリンタ

ChemStation C.01.10のインストール時に、PDF XChange 6 プリンタドライバがインストールされます（リビジョン 6.0.317.1）。

印刷制限

1つの印刷ジョブで印刷できる最大ページ数は1500ページです。例えばシーケンスサマリレポートは、1つの印刷ジョブです。

複数ページのクロマトグラムを印刷する場合（**[レポート条件]** ダイアログボックスで指定）、正しく印刷できる最大ページ数はプリンタの解像度によって異なります。クロマトグラムごとに印刷可能なページ数は、300 dpi では10ページ、600 dpi では最大6ページです。

ネットワークプリンターをローカルプリンターとして追加

プリンターが正しく機能することを確認してください。以下の手順に従って、ネットワークプリンターをローカルプリンターとして追加します。OpenLab CDS ChemStation Edition では、機器のコンフィグレーション時にこのプリンターを通常使うプリンターとして選択できます。

- 1 Microsoft コントロールパネルの **【デバイスとプリンター】** へ移動します。
- 2 **【プリンターの追加】** をクリックします。
- 3 **【プリンターが一覧にない場合】** をクリックし、**【ローカルプリンターを追加する】** を選択し **【次へ】** をクリックします。
- 4 **【新しいポートの作成】** を選択し、ポートの種類の**ローカルポート**を選択して **【次へ】** をクリックします。
- 5 **【ポート名】** に、プリンターへのネットワークパスを入力します。ネットワークパスは、**¥¥** に続いてプリンターを共有するコンピュータ名またはそのPCのIPアドレス、その後**¥** に続いてプリンターの共有名を指定します。
例：**¥¥PTPRINT¥PG5-B**、**¥¥192.168.1.100¥hpprinter**。
- 6 プリンタードライバーを選択し、**【次へ】** をクリックします。正確なモデルが表示されていない場合、最も近いモデル番号または一般的なプリンターを選択します。
- 7 残りのウィザードに従います。

注記

グラフィックや画像の印刷品質は、プリンターのハードウェアやメンテナンス状態、コンフィグレーション、印刷オプション、用紙の品質によって異なります。印刷中に画像やグラフィックのサイズを変更すると、印刷品質の低下につながる場合があります。プリンターに適した用紙サイズとページ余白を選択してください。

OpenLab CDS ChemStation Edition のインストールを開始する前に

OpenLab CDS ChemStation Edition のインストールを開始する前に、以下の手順が実行済みであることを確認してください。これらのコンフィグレーションオプションによって、特定のコンフィグレーションやインストールを開始する前に PC の準備が十分に整っていることを確認できます。

1 コンピューター名を決めます。

コンピューター名は、機器コンフィグレーションに反映されます。煩雑な作業を避けるため、OpenLab CDS ChemStation Edition のインストール後はコンピューター名を変更しないことをお勧めします。

注記

DNS サーバーがコンピューター名を確実に解決することができるように、インターネット基準プロトコル (RFC952) に従い、以下の文字を使用してください。

- 文字 (a-z、A-Z)
- 数字 (0-9)
- ハイフン (-)

下線は使用しないでください。

2 ユーザー名に使用できる文字は次のとおりです。

A-Z、a-z、0-9、_ (アンダーバー)、- (ハイフン)

3 OpenLab CDS をインストールするには、全てのサーバーおよびクライアントに対する管理者権限を持っている必要があります。パワーユーザー権限では不十分です (インストールを開始できません)。

4 データ、メソッド、シーケンス、コンフィグレーションなど、データシステムソフトウェアに関連するすべてのファイルを保存するディレクトリの場所を決めます。ディレクトリは、ソフトウェアを実行中の PC から常にアクセスできる必要があります。

5 お使いのシステムで OpenLab ECM を使用する場合、ECM サーバー名を取得してください。

注記

ECM および OpenLab CDS ChemStation Edition の両方に対して管理者権限を持っていることを確認してください。

- 6 ソフトウェアをインストールする方法を決めます。
 - **USB メディアから直接インストールする** — USB メディアをワークステーションコンピュータに直接挿入します。(推奨)
 - **指定したロケーションにインストールファイルをコピーする** — ユーティリティを使用してインストールファイルをネットワーク共有フォルダーなどにコピーし、そのロケーションからインストールを実行することができます。ただしネットワークによってはインストールに支障をきたす場合があります（「指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする」 60 ページを参照）。
- 7 ソフトウェアをインストールする前に、コンピュータがすべての要件を満たしていることを確認します。Documentation and Learning プラットフォームから『OpenLab CDS ChemStation Edition 要件ガイドガイド』（CDS_CS_HW-SW-Requirements.pdf）にアクセスできます。
 - a インストールメディアの Disk1¥Docs¥ へ移動し、Welcome.html を開いて Documentation and Learning にアクセスします。
 - b 言語を選択します。
 - c **[ようこそ]** ページの **[サイトプレパレーション]** > **[サイトプレパレーションと要件]** へ移動し、**[OpenLab CDS ChemStation Edition ハードウェアおよびソフトウェア要件]** を選択します。
この PDF を使用して、設定がネットワーク要件に準拠していることを確認し、ハードウェアとソフトウェアがシステムをサポートしているかどうかを確認できます。
- 8 A/D 接続、インターフェイス、検出器、通信ケーブルなど、必要なハードウェアをすべて接続します。
- 9 最新のグラフィックカードドライバがインストールされていることを確認してください。ベンダー固有の最新のドライバをインストールしてください。一般的なドライバは使用しないでください。
- 10 ハードウェアアクセラレータを無効にします。以下のレジストリキーが存在し、正しく設定されていることを確認します。
[HKEY_CURRENT_USER¥SOFTWARE¥Microsoft¥Avalon.Graphics]
"DisableHWAcceleration"=dword:00000001

PCの準備

OpenLab CDS ChemStation Edition のインストールを開始する前に

- 11 .NET 3.5 と .NET 4.7 が Windows の機能として有効になっているか確認してください。
インストール手順については、「[.NET 3.5 のインストール](#)」 16 ページおよび「[.NET 4.7 のインストール](#)」 17 ページを参照してください。
- 12 インストールパッケージやソフトウェア製品のソフトウェアアップデートがないか Agilent サービスノートを確認します。サービスノートは Agilent 販売代理店から入手できます。

オペレーティングシステムの設定

注記

Windows のユーザーアカウント制御 (UAC) をオンにしている場合は、変更する設定によっては、作業の続行を明示的に承認しなければならないことがあります。

OpenLab CDS ChemStation Edition 用の Windows コンフィグレーションチェッカー

OpenLab CDS ChemStation Edition コンフィグレーションチェックツールは、オペレーティングシステムのコンフィグレーションを準備またはトラブルシューティングしたり、コンピューターの問題を防止したりするのに役立ちます。

このツールでは、2 種類のコンフィグレーションチェックが行えます。

- 必須：OpenLab ChemStation Edition をインストールする前に適用する必要があるすべての**必須**設定をチェックして修正します。
- オプション：パフォーマンスおよびユーザビリティの設定をチェックします。コンフィグレーション設定はユーザー固有であり、ユーザーごとに個別に設定する必要があります。

このツールは .diagcab ファイルであり、Microsoft Windows Troubleshooting Platform (WTP) プログラムで使用するファイルフォーマットになっています。Microsoft Windows Troubleshooting Platform (WTP) は、Windows でハードウェアおよびソフトウェアの設定を見つけて修正するためのプラットフォームです。これは、コンピューター設定の診断と修正に使用されています。

一般的に、.diagcab ファイルは独立再生形式であり、インストールが不要なため、トラブルシューティングパックを展開するには有用です。.diagcab ファイル名拡張子は、WTP が実行できるファイル名拡張子として登録されています。

コンフィグレーションチェックが必須設定用かオプション設定用かに応じて、異なる .diagcab ファイルを実行する必要があります。

- 必須設定用のコンフィグレーションチェックを実行するには、ファイル **Agilent.Wtp.ChemStation.WindowsConfiguration.diagcab** を使用する必要があります。このファイルは Disk1¥Tools¥Windows Configuration Tools¥Mandatory Settings にあります。

- オプション設定用のコンフィグレーションチェックを実行するには、ファイル **Agilent.Wtp.ChemStation.WindowsConfiguration.diagcab** を使用する必要があります。このファイルは Disk1¥Tools¥Windows Configuration Tools¥Optional Settings にあります。
- 1 コンフィグレーションチェックを開始する前に、.diagcab ファイルをローカルディスクにコピーします。
- 2 管理者としてツールを実行して、すべての設定が適用されることを確認します。開始ページで **【詳細設定】** を選択し、**【管理者として実行】** をクリックします。
設定が適用されたら、レポートを作成して、どの設定が変更されたかを確認できます。
- 3 レポートを作成するには：
 - a **【トラブルシューティング完了】** ページで、**【詳細情報の表示】** をクリックします。
 - b **【印刷】** ボタンをクリックしてレポートを作成します。
- 4 コンフィグレーションツールの実行後は PC を再起動します。

注記

コンフィグレーションチェッカー実行時の注意事項：

- 実行中のコンピューターの電源を他のユーザーが切らないように注意してください。
- Win 7：メニューバーが有効であることを確認してください（**【整理】** > **【レイアウト】** をクリックし、**【メニューバー】** を選択します）。
- コンフィグレーションツールの実行後に PC を再起動することが非常に重要です。

マニュアルコンフィグレーション手順

Windows システムで OpenLab CDS ChemStation Edition が正しく動作するためには、この文書に記載されている Windows 設定変更を行う必要があります。これらの変更は、アプリケーションのパフォーマンスを最適化するためのもので、その他の変更はユーザビリティに影響します。

コンフィグレーション設定は、Windows システムとの関連に従って、必須、パフォーマンス、ユーザビリティのカテゴリーにグループ化されています。オペレーティングシステムによっては、特別なコンフィグレーション手順が必要な場合があります。

以下のセクションで、各カテゴリのコンフィグレーション手順について個別に説明します。それに従って Windows システムをコンフィグレーションしてください。または、OpenLab CDS コンフィグレーションチェックツールを実行してください（「OpenLab CDS ChemStation Edition 用の Windows コンフィグレーションチェッカー」 23 ページを参照）。

注記

以下の Windows 10 に関する説明は、Windows 10 ビルド 1809 をベースにしています。他のビルドではわずかに異なる場合があります。

注記

Windows 7 ユーザーの場合：

ChemStation をインストールする前に、Windows 修正プログラム KB2999226（**Windows での汎用の C ランタイムの更新プログラム**）がシステムにインストールされていることを確認してください。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2999226/update-for-universal-c-runtime-in-windows> を参照してください。

必須コンフィグレーション手順

必須コンフィグレーション手順について

このセクションの以下の手順には、インストールに必要なすべてのコンフィグレーション手順が含まれており、正しくインストールを行いデータの消失を回避するために必要です。

必須設定のコンフィグレーション

Microsoft コントロールパネル：

Windows [スタート] メニューで、[プログラムとファイルの検索] フィールドに「コントロールパネル」と入力します（または、[Win+R] を押して「コントロールパネル」と入力します）。コントロールパネルビューにすべての項目を表示するには、[表示方法] フィールドで [小さいアイコン] を選択します。

1 [管理ツール]：セキュリティオプションの設定：

a [ローカルセキュリティポリシー] を変更します

b [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] > [セキュリティオプション] の順に選択します。

- c 右側のパネルに表示される、以下のポリシーをダブルクリックします。
[ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティ モデル]
 - d 表示されたダイアログで、ドロップダウンリストから次の項目を選択します。[クラシック: ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する]
- 2 [ネットワークと共有センター] :
- a [アダプターの設定の変更] を選択します。イーサネットアダプターを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[一般] タブの [コンフィギュレーション] をクリックします。
 - b [電源の管理] タブで、すべてのチェックボックスをオフにします。
- 3 [電源オプション] :
- a お気に入りのプランとして [高パフォーマンス] を選択します。
 - b [プラン設定の変更] をクリックします。
 - c [コンピューターをスリープ状態にする] オプションを [適用しない] に設定します。
 - d [詳細な電源設定の変更] をクリックします。
 - e [ハードディスク] > [次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る] の順にノードを開きます。
 - f [分] を 0 (=なし) に設定します。
- 4 [プログラムと機能] :
- a [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。
 - b [Telnet クライアント] チェックボックスをオンにします。
 - c [TFTP クライアント] チェックボックスをオンにします。
 - d 必要に応じて PC を再起動します。
- 5 Windows 7 のみ :
- [管理ツール] : サービスを無効にします。
- [サービス] をダブルクリックします。
 - 以下のサービスのスタートアップの種類を [無効] に設定します。
 - Application Experience
 - Desktop Window Manager Session Manager

その他の Windows 設定：

- 1 Windows ログオンオプションを設定するには、**【スタート】** を右クリックし、コンテキストメニューから **【ファイル名を指定して実行】** を選択して、**【ファイル名を指定して実行】** フィールドに **gpedit.msc** と入力します。
 - a **【ローカルコンピューターポリシー】** > **【コンピューターの構成】** > **【管理用テンプレート】** > **【システム】** > **【ログオン】** の順に選択します。
 - b **【ユーザーの簡易切り替えのエントリポイントを非表示にする】** と **【常に従来のログオンを使う】** を **【有効】** に設定します。
- 2 Windows 10 のみ：**【スタート】** > **【設定】** > **【更新とセキュリティ】** > **【Windows セキュリティ】** で、
 - a **【アプリとブラウザの制御】** をクリックします。
【アプリとファイルの確認】 から、**【Microsoft Edge の SmartScreen】** および **【Windows ストアアプリの SmartScreen】** の SmartScreen をオフにします。
 - b **【ウイルスと脅威の防止】** で、
保護ツールがオンになっていることを確認します。
Windows Defender を使用する場合は、Windows コントロールパネルの **【Windows Defender ファイアウォール】** > **【詳細設定】** を設定します。
- 3 Windows 10 のみ：**【スタート】** > **【設定】** > **【デバイス】** > **【プリンターとスキャナー】**：通常使うプリンターを選択します。
 - a **【Windows で通常使うプリンターを管理する】** をオフにします。
 - b デフォルトとして設定するプリンターをクリックし、**【管理】** をクリックします。
 - c プリンター設定で、**【既定として設定する】** をクリックします。
- 4 Windows 10 バージョン 1903 のみ：
Net.TCP Port Sharing Service が無効になっている場合は、次の PowerShell コマンドを実行して有効にします。
Enable-WindowsOptionalFeature -online -All -FeatureName WCF-TCP-Activation45

パフォーマンスコンフィグレーション手順

パフォーマンスコンフィグレーション手順について

このセクションの以下の手順には、システムパフォーマンスを向上させるすべてのコンフィグレーション手順が含まれます。これらの設定はオプションです。

パフォーマンス向上のための設定のコンフィグレーション

Microsoft コントロールパネル：

1 **【システム】**：システムプロパティの変更：

- a **【システムの詳細設定】** をクリックします。
- b **【詳細設定】** タブの **【パフォーマンス】** の下にある **【設定】** をクリックします。
 - **【詳細設定】** タブ > **【仮想メモリ】**：最適なパフォーマンスを得るには、**【変更】** ボタンを使用して、ページングファイルのサイズを PC の物理 RAM 容量の 2～3 倍に設定します。可能であれば、システムインストールドライブとは別のドライブのページングファイルを指定してください。
 - **【データ実行防止】** タブ：**【重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする】** を選択します。
【OK】 をクリックして **【パフォーマンスオプション】** ダイアログを閉じます。

- c Windows 10 および Windows 7 の場合のみ：**【システムの保護】** タブ：
【保護】 が無効であることを確認します。必要に応じて、**【構成】** をクリックし、**【システムの保護を無効にする】** を選択します。

2 Windows 10 および Windows 7 のみ：**【インデックスのオプション】**：
インデックス作成を無効にします。

- **【変更】** ボタンをクリックします。**【すべての場所の表示】** を選択し、すべてのドライブと場所の選択を解除します。

その他の Windows 設定：

1 Windows 10 のみ：**【スタート】** > **【設定】** > **【個人用設定】** > **【色】**：
【透明効果】 をオフにします。

ユーザビリティコンフィグレーション手順

ユーザビリティコンフィグレーション手順について

このセクションの以下の手順には、Windows アプリケーションのユーザビリティを向上させるすべてのコンフィグレーション手順が含まれます。これらの設定はオプションです。

ユーザビリティ向上のための設定のコンフィグレーション

Microsoft コントロールパネル：

- 1 **[エクスプローラーのオプション]**（Windows 7 の場合は **[フォルダーオプション]**）：**[表示]** タブで
 - **[常にメニューを表示する]** を選択します。
 - **[タイトルバーに完全なパスを表示する]** を選択します。
 - **[登録されている拡張子は表示しない]** の選択を解除します。
 - **[共有ウィザードを使用する]** の選択を解除します。
 - 2 **[システム]**：システムプロパティの変更：
 - a **[システムの詳細設定]** をクリックします。
 - b **[詳細設定]** タブの **[起動と回復]** の下にある **[設定]** をクリックします。
 - **[起動システム]** セクション：
[...を表示する時間] の両方を、**30 秒** から **3 秒** に変更します。
 - Windows 10 および Windows 7 の場合のみ：**[システムエラー]** セクションで次の操作を行います。
 - a **[自動的に再起動する]** を選択します。
 - b **[デバッグ情報の書き込み]** サブセクションで、ドロップダウンリストから **[カーネルメモリダンプ]** を選択します。
- [OK]** をクリックして **[起動と回復]** ダイアログを閉じます。

- c [詳細設定] タブの [パフォーマンス] の下にある [設定] をクリックします。 [視覚効果] タブで：
- [コンピューターに応じて最適なものを自動的に選択する] を選択し、 [適用] をクリックします。
[カスタム] を選択し以下のチェックボックスを選択すると、使用性が高まります。
 - [マウス ポインターの下に影を表示する]
 - [ウィンドウの下に影を表示する]
 - [スクリーン フォントの縁を滑らかにする]
- [OK] をクリックして [パフォーマンスオプション] ダイアログを閉じます。

その他の Windows 設定：

- 1 ナビゲーションウィンドウを有効にします。
 - Windows 10：Windows Explorer を開き、リボンから [表示] > [ナビゲーションウィンドウ] を選択し、 [ナビゲーションウィンドウ] が選択されていることを確認します。
 - Windows 7：Windows Explorer を開き、 [整理] >> [レイアウト] を選択し、 [ナビゲーションウィンドウ] が選択されていることを確認します。

- 2 Windows 7のみ： [スタート] メニューの全般的なレイアウトを設定します。（ [スタート] を右クリックし、 > [プロパティ] をクリックします）。
 - a [スタートメニュー] タブ: [プライバシー] セクションで両方の項目を選択します。
 - b [スタートメニュー] タブの [カスタマイズ] ボタンを選択します。
[スタートメニューのカスタマイズ] ダイアログボックスで、以下の手順を実行します。
 - 次のオプションの選択を解除します。
 - [[お気に入り] メニュー]
 - 次のオプションを選択します。
 - [コンピューター] の下の [リンクとして表示する]
 - [接続先]
 - [コントロールパネル] の下の [メニューとして表示する]
 - [既定のプログラム]
 - [デバイスとプリンター]
 - [ドキュメント] の下の [リンクとして表示する]
 - [コンテキストメニューと [スタート] メニューへの項目のドラッグ/ドロップを有効化する]
 - [ゲーム] の下の [この項目を表示しない]
 - ヘルプ
 - [新しくインストールされたプログラムを強調表示する]
 - [ミュージック] の下の [この項目を表示しない]
 - [ネットワーク]
 - [マウスポインターを置いたときにサブメニューを開く]
 - [個人用フォルダー] の下の [リンクとして表示する]
 - [ピクチャ] の下の [リンクとして表示する]
 - [[ファイル名を指定して実行] コマンド]
 - [その他のファイルとライブラリを検索する] の下の [パブリックフォルダーも検索する]
 - [プログラムおよびコントロールパネルを検索する]
 - [[すべてのプログラム] メニューを名前ですべて替える]

- [システム管理ツール] の下の [[すべてのプログラム] メニューと [スタート] メニューに表示する]
 - [大きいアイコンを使用する]
- 3 Windows 10 および Windows 7 のみ：Windows のログオンオプションを設定します。 [スタート] を右クリックし、コンテキストメニューから [ファイル名を指定して実行] を選択して、 [名前] フィールドに **gpedit.msc** と入力します。
- a [ローカルコンピューターポリシー] > [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [ログオン] の順に選択します。
 - b [ログオン時によろこ画面を表示しない] を [有効] に設定します。
- 4 **ごみ箱のプロパティ**：（デスクトップにある [ごみ箱] アイコンを右クリックし、 [プロパティ] を選択します。）以下のオプションを選択します。
- [カスタムサイズ] を選択し、最大サイズをドライブの全ディスク容量の約 10% に設定します。
 - [削除の確認メッセージを表示する] を選択します。
- 上記の手順をコンピュータのすべてのドライブで繰り返します。
- 5 Internet Explorer をデフォルトの Web ブラウザーとして選択します。
- Windows 10 のみ：
 - a [スタート] > [設定] > [アプリ] > [既定のアプリ] で、Internet Explorer をデフォルトの Web ブラウザーとして選択します。
 - Windows 7 のみ：
 - a Microsoft コントロールパネルの [既定のプログラム] > [既定のプログラムの設定] で、Internet Explorer をリストから選択します。
 - b [このプログラムを既定として設定する] をクリックします。
- 6 Windows 10 のみ： [スタート] > [設定] > [システム] > [タブレットモード]：
- a [サインイン時の動作] で、 [デスクトップモードを使用します] を選択します。
 - b [デバイスがタブレットモードのオンとオフを自動的に切り替えるとき] で、 [確認せず、切り替えも行わない] を選択します。
- 7 Windows 10 のみ： [スタート] > [設定] > [アプリ] > [オフラインマップ]： [従量制課金接続] と [マップの更新] をオフにします。

- 8 Windows 10 のみ： [スタート] > [設定] > [プライバシー]：
- a [全般] ページで、以下をオフにします。
 - [アプリの使用状況に基づいてユーザーに合わせた広告を表示するために、広告識別子の使用をアプリに許可します (オフにすると、ID がリセットされます)]
 - [Web サイトが言語リストにアクセスできるようにして、地域に適したコンテンツを表示する]
 - [Windows 追跡アプリの起動を許可してスタート画面と検索結果の質を向上します]
 - b [位置情報] ページで、このデバイスの位置情報がオフになっていることを確認します。オンの場合は、[変更] をクリックしてオフにします。
- 9 Windows 10 のみ： [スタート] > [設定] > [個人用設定]： 広告情報を無効：
- a [ロック画面] ページ：
 - [背景] で、[画像] または [スライドショー] を選択します。
 - [Windows と Cortana に関するトリビアやヒントなどの情報をロック画面に表示する] をオフにします。
 - [サインイン画面にロック画面の背景画像を表示する] をオフにします。
 - b [スタート] ページ：
 - [ときどきスタート画面におすすめを表示する] をオフにします。
- 10 Windows 10 のみ： [スタート] > [設定] > [個人用設定]： [タスクバー] で、[タスクバー ボタンを結合する] の下から、[タスクバーに入りきらない場合] を選択します。
- これにより、CDS インスタンスを開いている間の切り替えが単純化されます。

LC/MS システムと CE/MS システムのセキュリティ設定の編集

このセクションでは、LC/MS と CE/MS に必要なすべてのセキュリティ設定についてまとめます。他のセキュリティ設定は、OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラによって自動的に行われます。

OpenLab CDS ChemStation Edition は、オペレーティングシステムの管理者ユーザーアカウントを使ってインストールする必要があります。ここでは、すべてのユーザーとパワーユーザーが同じ設定を使用することを前提にして、システムのオプションを設定する方法を説明します。

ファイアウォール

LC/MS システムまたは CE/MS システムをコントロールする PC のファイアウォールをオフにすることをお勧めします。

ネットワークの詳細設定

MS との通信は、[アダプターとバインド] ダイアログボックスに NIC が表示される順番の影響を受けます。

- 1 [スタート] > [コントロールパネル] の順に選択します。
[ネットワークと共有センター] に移動します。¹
- 2 [アダプターの設定の変更] をクリックします。
- 3 Alt キーを押して、メニューバーを表示します。



¹ すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

4 「詳細設定...」を選択します。

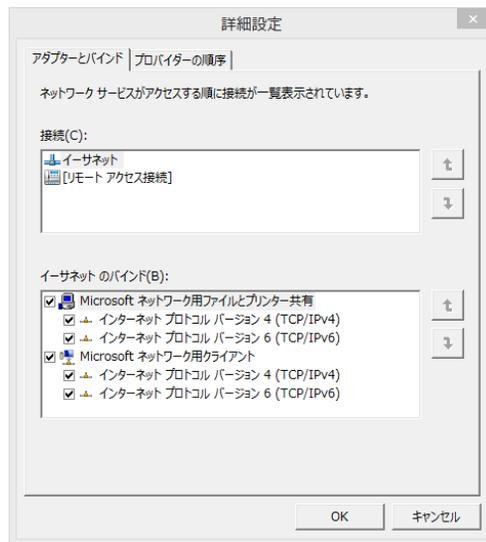


図2 「詳細設定」ダイアログボックスの「アダプターとバインド」タブ

5 「アダプターとバインド」タブ（35ページ 図2を参照）で、次の操作を行います。

- a 「LC/MS」または「CE/MS」のNICに関連しているLAN接続が、接続リストの1番目の項目になっていることを確認します。

注記

LANカードの名前は例で示したものと異なることがあります。LANカードに割り当てられたIPアドレスを比較することで、装置のLANがどのLANカードか分かります。

社内イントラネット>インターネットに関連しているLANは、通常、社内の固定IPポリシーまたはDHCPサーバーにより割り当てられたIPアドレスを持ちます。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

2

OpenLab CDS ChemStation Edition の インストール

インストールの準備	37
インストールウィザードの実行	38
使用許諾契約書の画面	38
インストールフォルダー画面	38
インストールの種類画面	39
サマリ画面	40
次の作業内容	41
スクリプトインストール	42
スクリプト化インストールについて	42
XMLとしてエクスポート	42
パラメータおよびリターンコード	43
インストール、アップグレードまたは修復	46
アンインストール	47
ログおよびトレース	47

ソフトウェアは、OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラで自動的にインストールされます。このツールにより、必要なコンポーネントがすべてインストールされます。

インストールの準備

- 1 インストールを行う間は、ウイルス対策ソフトウェアを無効にしてください。
- 2 インストール中は Windows Update サービスを実行しないでください。ChemStation のインストール中に Windows Update が実行されないようにしてください。
- 3 システムの再起動が保留となっていないことを確かめてください。
保留になっている再起動は、コンフィグレーションチェッカー（「OpenLab CDS ChemStation Edition 用の Windows コンフィグレーションチェッカー」 23 ページを参照）とサイトプレパレーションツール（「サイトプレパレーションツールの実行」 11 ページを参照）の両方に表示されます。
- 4 インストールを開始するには、¥Disk1¥Setup.bat へ移動します。ファイルを右クリックし、管理者として実行して **[プラン]** 画面に進みます。

インストールウィザードの実行

使用許諾契約書の画面

- 1 OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラから、**【インストール】** を選択します。
- 2 **【OpenLAB CDS ChemStation】** を選択します。
- 3 **【OpenLab CDS ウィザード】** が開きます。**【使用許諾契約書】** をお読みください。インストーラ メインメニューの **【リソース】** オプションでは、使用許諾契約書が印刷可能な PDF ファイルで提供されています。
- 4 **【規約に同意します】** を選択します。この条件に同意しない場合はインストールを開始できません。
- 5 **【次へ】** を選択し、**【インストールフォルダー】** 画面に進みます。

インストールフォルダー画面

- 1 フォルダ名を入力するか、アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリ（通常これはプログラムフォルダーにあります）に移動します。フォルダ名は英語にしてください。

注記

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こす場合があるため、サポートしていません。

- 2 インストール時にトレーニングドキュメントをインストールするには、**【e-familiarization をインストール】** を選択します。これによりインストールの時間が大幅に長くなります。
- 3 インストールの一部としてインストールの確認を実行するには、**【ソフトウェアベリフィケーションの実行】** を選択します。Software Verification Tool では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。Software Verification Tool は、後日実行することもできます（「ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーションの実行」 54 ページを参照）。
- 4 **【次へ】** を選択し、**【インストールの種類】** 画面に進みます。

インストールの種類画面

- 1 **【インストールの種類】** で **【スタンドアロンワークステーション】** を選択します。
- 2 **OpenLab CDS ChemStation Edition** のために、以下のフォルダーパスを指定します。
 - **インストールフォルダー**：ChemStation アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリ。通常はプログラムフォルダーにあります。
注：フォルダー名にスペースを使用することはできません。
 - **機器データフォルダー**：メソッド、シーケンス、結果など、機器固有のデータ。デフォルトデータパスは、パブリックのドキュメントフォルダーです。セキュアファイル I/O 機能を有効にする場合、このフォルダーを後で共有しないでください。PC に 2 つ目のディスクドライブを持っている場合、デフォルトデータパスをこのドライブに変更することをお勧めします。2 つ目のディスクドライブを使用することでパフォーマンスが向上します。
- 3 **【次へ】** を選択し、**【追加項目】** 画面に進みます。
- 4 データシステムとして OpenLab ECM 3.4、3.5 または 3.6 を使用する場合：
 - a **【ECM 3.x サーバー】** を選択します。サーバー名を入力し、**【接続テスト...】** ボタンを押します。
 - b 接続テストが実行され、機能している OpenLAB ECM サーバーへのアクセスが確認されます。接続テストが正常に終了したら、**【接続成功】** のメッセージが表示されます。**【OK】** をクリックして続行します。接続テストに失敗した場合、**【追加項目】** の画面に戻ります。ここでは、**【次へ】** を選択してテストを再び実行できます。テストが正常に終了しない場合、以下の処理をしてください。
 - 新しい OpenLAB ECM サーバーを入力してテストを実行する。
 - OpenLAB ECM サーバーに接続できない場合には、社内サポートに連絡してください。
 - このボックスのチェックを解除して、OpenLab ECM なしでインストールを実行する。サーバーが決まってから、使用するデータシステムにサーバーを追加することができます。

注記

ストレージタイプ **【OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server】** は、ネットワークワークステーションまたは分散システムでのみで使用できます。

- 5 **【次へ】** を選択し、**【サマリ】** 画面に進みます。

サマリー画面

- 1 これまでの手順で選択したインストール設定を確認します。必要に応じ、**【戻る】** でインストールの設定を変更したり、**【キャンセル】** でインストールをキャンセルしたりすることができます。
- 2 インストールを開始またはキャンセルする前に、インストールの設定を記載したXML ファイルを保存することができます。このXML ファイルは、スクリプトインストールに使用することができます (**「スクリプト化インストールについて」** 42 ページ を参照)。

XML ファイルを保存するには、**【サマリー】** 画面のファイル記号  をクリックします。

- 3 **【開始】** を選択してインストールを開始します。
- 4 システムチェックが自動的に実行され、リストされているアクティビティに進みます。
【システムチェック合格】 というメッセージが表示された場合、インストールは続行されます。
【システムチェックで問題が発生しました】 というメッセージが表示された場合、以下のいずれかを実行できます。
 - ・ システムレポートを確認せずに、インストールを続行する。
 - ・ システムレポートを確認せずに、インストールを延期する。
 - ・ システムレポートを確認し、インストールを続行する。
 - ・ システムレポートを確認し、インストールを中断して問題を修正する。

注記

システムレポートを PDF ファイルとして表示するには、Adobe Reader がインストールされている必要があります (**「Adobe Acrobat Reader のインストールと設定」** 13 ページ を参照してください)。

- 5 インストールの一部としてインストールの確認を行った場合は、**【ソフトウェアベリフィケーションレポート】** を確認します。レポートに不合格と表示されている場合、コンピュータの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。
- 6 **【次へ】** をクリックし、**【インストールした機能】** 画面に進みます。
- 7 **【完了】** をクリックし、インストールを終了します。

次の作業内容

ここまでのステップで、データシステムソフトウェアの基本インストールは完了しました。

このシステムには**60日間のスタートアップライセンス**があり、期限の開始日はインストールした日付となります。

ファイナルソフトウェアライセンスをリクエストおよびダウンロードし、システムに**ライセンスファイル**を追加する方法については、このガイドの「ライセンス」を参照してください。

ファイナルソフトウェアライセンスを取得およびインストール後に、ユーザーおよび機器のコンフィグレーションを行い、エンドユーザーが操作できるようにデータシステムを準備します。これらはすべて **[OpenLab Control Panel]** から操作できます。『OpenLab CDS ChemStation Edition コンフィグレーションガイド』（CDS_CS_configure.pdf）を参照してください。

スクリプトインストール

スクリプト化インストールについて

OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラでは、スクリプト化インストールというコマンドラインモードのインストールをサポートしています。このモードでは、インストール、アップグレード、修復、アンインストールをサポートしています。スクリプト化されたインストールは、マニュアルで、またはLANDeskやHP CMなどのソフトウェア管理システムの一部として実行できます。対応するパラメータ (-q) を使用すると、スクリプト化されたインストールは自動で完了します。

XML としてエクスポート

インストーラでは、インストールパラメータを XML ファイルとしてエクスポートし、スクリプト化インストールで使えるようにする機能をサポートしています。

この機能は、アップグレードおよび修復でもサポートされていますが、エクスポートしたインストール用 XML ファイルはこの用途には適しません。スクリプトでの修復やアップグレードでは、それぞれのインストールウィザードを使用して、特定の XML ファイルを準備する必要があります。

- 1 OpenLab CDS ChemStation インストールウィザードを起動します。
- 2 インストール手順に従います。
- 3 **【サマリ】** 画面に進んだ後、右上隅にある  アイコンをクリックして XML にインストールパラメータをエクスポートします。ファイルを物理ドライブに保存します。

注記

インストールファイルと XML ファイルを同一のファイルパスに保存しないでください。

スクリプト化インストールに XML ファイルを使用できるようになりました。

パラメータおよびリターンコード

パラメータ

以下のパラメータを使用して、コマンドラインモードで Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe を呼び出すことができます。

- **-i**
インストールまたはアップグレード
- **-r**
修復
- **-u**
アンインストール
- **-q**
サイレントモード - インストールまたはアンインストールウィザードを表示しません。
- **-reboot**
正常にインストール、修復、アップグレード、またはアンインストールされた後、自動で再起動します。システムは、リターンコードが 0 または 17 の場合に再起動します。

システムが再起動する 10 min 前に、コマンドプロンプトに警告メッセージが表示されます。さらに、再起動の 2 min 前に Windows のダイアログボックスが開きます。
- **KeepComponents**
アンインストールプロセス用オプションのパラメータ。システムに残すべき共有コンポーネントがある場合に使用します。このパラメータを使用しない場合、すべての OpenLab CDS コンポーネントがシステムから削除されます。特定の共有コンポーネントを保存しておくには、下表で対応する ID を二重引用符 (") で囲みます。複数の項目はカンマで区切ります。

コンポーネント名	ID
Software Verification Tool	IQT
Microsoft SQL Server	SQLServer
IO Library	IOLibraries

- **ConfigurationXML=<ConfigurationXMLFilePath>**

XML ファイルには、インストール、アップグレードまたは一部のトポロジの修復に必要な、インストーラのすべての入力が含まれます（「XMLとしてエクスポート」 42 ページ 参照）。<ConfigurationXMLFilePath> は、正しいファイルパスおよび XML ファイル名で置換してください。

注記

等しい (=) の記号の前後には、スペース（空白）を入力しないでください。スクリプトでのインストールやアンインストールモードが、期待通りに動作しなくなります。

リターンコード

コマンドラインモードで、インストール、アンインストール、アップグレード、または修復を行うと、システムから次のような数値コードが返されます。

表2 リターンコード

エラー/リターンコード	戻り値
Unknown (default)	-1
Success	0
CoreComponentFailure	1
NonCoreComponentFailure	2
TestConnectivityFailure	3
ExpectedWindowsInstallerNotInstalled (WI 4.5 missing)	4
ParameterMismatchError	5
CannotProceedWithFreshInstallation	6
CannotProceedWithUpgrade	7
CannotProceedWithUninstallation	8
CannotProceedWithRepair	9
CannotProceedWithReRegistration	10
ReRegistrationNotSupported	11
IncompleteTopologyFound	12
InvalidUNCPATH	13

表2 リターンコード

エラー/リターンコード	戻り値
MissingInstallable	14
NotAStrongPassword	15
DowngradeNotSupported	16
RestartRequired	17
RegistryCleanupError	18
InvalidInputXML	19
InvalidMode	20
SitePrepFailure	21
DatabaseConnectionFailed	22
DotNetFramework4NotInstalled	23
OLSSConnectionFailed	24
PDFReaderNotInstalled	25
AllComponentsInstallationFailed	26
SomeComponentsInstallationFailed	27
Failed	28
AddOnListEmpty	29
EULANotAccepted	30
ScriptedNotSupported	31

インストール、アップグレードまたは修復

インストールモードでは、インストーラは、.NET Framework がシステムにあるかどうかを確認します。システムにない場合は、自動的にインストールします。使用許諾契約書に同意する場合は、**【同意する】**を選択します。

インストーラが、使用するシステムに既にインストールされている製品を確認します。インストール済みのコンポーネントに応じて、以下のいずれかのオプションが表示されます。

- 新規インストールを開始
- アップグレード
- 修復

必要なインストールファイルが見つからない場合、ログファイルにエントリが作成されます。コンポーネントのタイプに応じて、インストールは続行またはロールバックされます。このような状況では、対応するエラーコードが返されます。

必要な準備:

指定したフォルダーにすべてのインストールファイルがコピーされている必要があります（「指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする」60 ページを参照）。この手順は、スクリプトを使用しているインストールで必須です。

- 1 コマンドプロンプトまたは Power shell プロンプトの実行可能ファイルを右クリックし、管理者として実行します。

管理者として開始した場合のみ、スクリプト使用インストールに対するリターンコードが発行されます。

- 2 インストールファイルを保存したロケーションに移動します。

例：C:¥CDS

- 3 インストールを開始するには、次の構文で Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe を呼び出します。

Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -i ConfigurationXML="<path to xml file>" -q -reboot

例：

```
Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -i  
ConfigurationXML="c:¥settings¥ConfigurationXML.xml" -q -reboot
```

このコマンドでは、ユーザーインターフェイスなしでインストールウィザードを起動し、自動的にシステムを再起動します。

アンインストール

- 1 コマンドプロンプトまたは Power shell プロンプトの実行ファイルを右クリックし、管理者として実行します。
管理者として開始した場合のみ、スクリプト化アンインストールに対するリターンコードが発行されます。

- 2 インストールファイルを保存したロケーションに移動します。

例：C:\CDS

- 3 アンインストールを開始するには、次の構文で Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe を呼び出します。

Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -u KeepComponents="<コンポーネントのリスト>" -q -reboot

たとえば、次のようになります：

```
Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -u KeepComponents="IQT,IOLibraries" -q -reboot
```

KeepComponents パラメータでは、システムに保存しておきたい共有コンポーネントを指定できます (「パラメータ」 43 ページを参照)。この例のコマンドでは、OpenLab CDS コンポーネントである Software Verification Too (IQT) と IO ライブラリ (IOLibraries) が保存されます。

ログおよびトレース

すべての例外、エラー、情報メッセージが次の場所にログされます。

- インストール、アップグレードまたは修復中：<ベースインストールディレクトリ>\Logs
- アンインストール中：<ユーザーのテンポラリディレクトリ>\<会社名>\Logs\<ログフォルダー>\<ウィザード名>.txt



3

インストール後のタスク

ChemMain のファイアウォール設定 49

ウィルス対策プログラムの設定 50

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。

ChemMain のファイアウォール設定

以下の手順を実行して、ファイアウォールの制限により ChemStation が正しく機能しなくなるのを防止します。2 番目のネットワークカードを使用して機器のデータトラフィックを分離し、2 番目のネットワークカードに対してのみ以下の手順を実行してください。

または、必要なファイアウォールポートがすべて開いていることを確認してください。詳細については、『OpenLab CDS ChemStation Edition ハードウェアおよびソフトウェアの要件ガイド』（CDS_CS_HW-SW-Requirements.pdf）を参照してください。

- 1 Microsoft コントロールパネルで、**[Windows Defender ファイアウォール]** をクリックします。¹
- 2 **[WindowsDefenderファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可]** をクリックします。
- 3 **[設定の変更]** をクリックします。
[別のアプリの許可...] ボタンがアクティブになります。
- 4 **[別のアプリの許可...]** をクリックします。
- 5 **[参照...]** をクリックし、C:\Program Files (x86)\Agilent Technologies\ChemStation\CORE へ移動します。
- 6 ChemMain.exe を選択し、**[開く]** をクリックします。
- 7 **[追加]** をクリックします。
- 8 許可されたアプリおよび機能のリストで、**ChemStation ChemMain** を検索し、3 つすべてのネットワークタイプのチェックボックスをオンにします。
- 9 変更を確認します。
- 10 ChemMainAcq.exe の手順を繰り返します。

¹ すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

ウイルス対策プログラムの設定

『OpenLab CDS ChemStation Edition ハードウェアおよびソフトウェアの要件ガイド』（CDS_CS_HW-SW-Requirements.pdf）の「ファイアウォール設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

注記

ウイルス対策プログラムを実行すると、コンピューターの動作とパフォーマンスが影響を受けることがあります。ウイルススキャナによっては、OpenLab CDS ChemStation Edition と併用すると問題が生じる可能性があります。Symantec Endpoint Protection 14.0 MP2 および Microsoft Security Essentials はテスト済みです。

OpenLab ソフトウェアが正しく機能するには、ウイルス対策ソフトウェアによるリアルタイム保護から、以下のフォルダーを除外する必要があります。これらは、機器が待機状態で、データを測定していない間にスキャンされるようにしてください。除外するフォルダーの設定方法は、使用しているウイルス対策ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

プロセス	ディレクトリ	ファイル名
データ取込	%public%\Documents\ChemStation (またはインストール時に設定した機器データ用の対応するフォルダー)	データ、メソッド、 シーケンス、レポートなど
ECM による アップロードと ダウンロード (該当する場合)	Windows ユーザーの場合は %temp% (ユーザーの temp ディレクトリ)	*.sszip

プロセス	ディレクトリ	ファイル名
標準レポート	Windows ユーザーの場合は %temp% (ユーザーの temp ディレクトリ)	~p3d*.tmp ~job*.tmp Hpspl00.que
CDS インテリジェント レポート	%LOCALAPPDATA% %APPDATA% %PROGRAMDATA%	次のファイル： <ul style="list-style-type: none"> • Agilent • Agilent Technologies • Agilent_Technologies,_Inc • IsolatedStorage • TEMP 例： C:\Users\%xxxxx\AppData\Local\Agilent Technologies\Intelligent Reporting\RawDataFileCache

使用するウィルス対策ソフトウェアに、プログラムや実行可能ファイルの実行を禁止する設定がある場合は、次のプログラムファイルの実行禁止を設定していないことを確認してください。これらのプログラムファイルが格納されているフォルダーを見つけるには、Windows の検索機能を使ってください。

- agilentlibrarieservice.exe
- chemmain.exe
- chemmainacq.exe
- apg_top.exe
- iprocsvr.exe
- iproc8491.exe
- msinsctl.exe
- httpdmsd.exe
- epcsetup.exe
- AcroRd32.exe
- Acrobat.exe

注記

システムの設定によっては、上記のフォルダーやファイルが存在しない場合があります。

4

オプションの手順

追加ソフトウェアとドライバーのインストール	53
ソフトウェアインストール後のソフトウェア ベリフィケーションの実行	54
ワークステーションからネットワークワークステーションへの変換	55
オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上	57
セキュアファイル I/O を用いた ChemStation フォルダの保護	58
PC 名の変更	59
指定したフォルダーに インストールファイルをコピーして インストールする	60
パブリックフォルダーへのショートカットの追加	61

この章では、追加ドライバーとソフトウェアウィザードに関する情報、Software Verification Tool に関する情報、およびその他の便利な手順に関する情報を提供します。

追加ソフトウェアとドライバーのインストール

OpenLab CDS ChemStation Edition には、追加ソフトウェア（ADFExport プラグインや、サードパーティ製の機器用のドライバーなど）をインストールするウィザードが用意されています。このウィザードを開始するには、**【スタート】 > 【すべてのプログラム】 > 【Agilent Technologies】 > 【OpenLab 追加ソフトウェアとドライバー】** を選択します。ウィザードの指示に従って、必要なソフトウェアをインストールします。

ネットワークドライブの準備

追加ソフトウェアがネットワークドライブ上に置かれている場合は、ウィザードがそこにアクセスできるようにネットワークドライブを準備する必要があります。この準備を行わなければ、ウィザードの該当ドライブへのアクセスは Windows のセキュリティ機能により拒否されます。

- 1 ドライブにドライブ文字を割り当てます。

例えば、"**%%<machine-name>%OpenLABCDS**" という共有パスを使用して、ドライブに**Z:**を割り当てます。

これにより、ログインしているユーザーに対してドライブの割り当てが行われます。

- 2 コマンドプロンプトを特権モードで開き（管理者として実行し）、**net use** コマンドでドライブを割り当てます。

例えば、

net use Z:"%%<マシン名>%OpenLABCDS" などと入力します。

これにより、ローカル管理者アカウントに対してドライブの割り当てが行われます。割り当てられたドライブが、ログインユーザーと管理者の両方で表示され、ウィザード内で選択できるようになります。

ソフトウェアインストール後のソフトウェア ベリフィケーションの実行

ソフトウェアベリフィケーションツール（SVT）では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。インストールの終了時にソフトウェアベリフィケーションが正常に実行されている場合、再度実行する必要はありません。

- 1 Windows オペレーティングシステムを使用して、**[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Agilent Technologies]** > **[Software Verification Tool]** を選択します。
- 2 検証するコンポーネントを選択します。
- 3 **[Qualify]** を選択します。
アプリケーションが実行され、ソフトウェアベリフィケーションレポートが作成されます。
- 4 レポートに不合格と表示されている場合、コンピュータの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。
ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。

ワークステーションからネットワークワークステーションへの変換

ネットワークワークステーションでは、独立したサーバーを使用してシステムを制御します。任意のネットワークワークステーションから、Shared Services コンポーネントによって提供されるすべての情報にアクセスできます。例えば、利用できる機器や、その機器の現在のステータス（オンライン、オフライン、エラー、実行中、ノットレディなど）を、それぞれのワークステーションから確認することができます。ライセンスとユーザーアカウントも Shared Services サーバー上で一元管理されます。

注記

- 以下のいずれかを先にインストールしておく必要があります。
 - OpenLab CDS Shared Services Server（『OpenLab CDS ChemStation Edition ネットワーク対応および分散システムのインストール』、ディスク 1 収録の CDS_CS_Install_NwWS-DS.pdf を参照）
 - Content Management システム（OpenLab Server、OpenLab ECM XT、OpenLab ECM 3.x）。
- ワークステーションとサーバーの Shared Services バージョンが同じであることを確認してください。バージョンが異なっている場合は、変換を実行する前にシステムをアップグレードしてください。「[「アップグレードの計画」](#) 71 ページ」を参照してください。

アップグレード中のシステムにバージョンが混在している間の一時的なサポートについては、『OpenLab CDS ChemStation Edition システムトポロジとアーキテクチャコンセプト』（CDS_CS_Topologies.pdf）を参照してください。

- 1 変換を開始する前に、機器のデータ、メソッド、およびシーケンスをローカルのバックアップフォルダーにコピーします。次に、ワークステーションからその機器を削除します。
- 2 OpenLab CDS ChemStation Edition インストーラから、**[メンテナンス]** を選択します。
- 3 **[OpenLab スタンドアロンワークステーションをネットワークワークステーションに変換]** を選択します。
- 4 サーバー名と、サーバーが使用している認証サービスを入力します。

オプションの手順

ワークステーションからネットワークワークステーションへの変換

サーバーが認証を必要とする場合は、OpenLab Shared Services 管理者の資格情報の入力を求められます。

- 5 変換を開始します。
- 6 変換後、新しい機器をコンフィグレーションし、ローカルフォルダーのデータを元の場所にコピーします。

オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上

OpenLab CDS ChemStation Edition を実行するコンピューターは、インターネットに接続されていないとパフォーマンスが低下する場合があります。

Windows オペレーティングシステムには、セキュアソフトウェアの使用時に Windows セキュリティ証明書をすべて更新するため、常にオンライン接続を検索するルーチンが組み込まれています。

この問題を解決するには、すべてのワークステーション、クライアント、AIC、およびサーバー上で以下のシステム設定を使用してください。

- 1 Internet Explorer を開き、**[ツール]** > **[インターネットオプション]** を選択します。**[詳細設定]** タブで、以下のチェックボックスをオフにします。
 - **[セキュリティ]** > **[発行元証明書の取り消しを確認する]**
 - **[セキュリティ]** > **[サーバーの証明書失効を確認する]**
- 2 以下のレジストリキーを変更します。
 - [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Policies¥Microsoft¥SystemCertificates¥AuthRoot]
"DisableRootAutoUpdate"=dword:00000001
 - [HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Policies¥Microsoft¥SystemCertificates¥AuthRoot]
"DisableRootAutoUpdate"=dword:00000001
- 3 ルート証明書をオフにしたことを記録します。これによりユーザーが他のアプリケーションをインストールするのを防止します。

注記

コンピューターをインターネットに再度接続する場合は、レジストリキーを削除する必要があります。

セキュアファイル I/O を用いた ChemStation フォルダの保護

データ、メソッド、シーケンスなどの ChemStation ファイルは、さまざまなローカルフォルダに保存されます。データの完全性を確保するために、ChemStation ではセキュアファイル I/O 機能を提供しています。この機能を有効にした場合、すべてのフォルダが ChemStation 外部からの変更や **【開く】** または **【名前を付けて保存】** ダイアログでの変更から保護されます。

詳細については、『OpenLab CDS ChemStation Edition コンフィグレーションガイド』(CDS_CS_configure.pdf) の「セキュアファイル I/O を用いたフォルダ保護」を参照してください。

PC名の変更

ネットワーク内での重複した名前を避けるためや、ポリシーの変更によってPC名を変更する場合があります。内部では、ソフトウェアコンポーネントはワークステーションのlocalhostを使用するため、ソフトウェアの実行を継続するための追加の操作は必要ありません。ただし、インストール後にPC名を変更する必要がある場合は、そのPCに対するライセンスファイルは無効になります。

機器は、指定したコンフィグレーション用に作成されたファイルをインストールすることでライセンス供与されます。ライセンスファイルのテキストには、**コンピューター名**とネットワークカードの**ハードウェアアドレス**が記載されています。このいずれかのパラメータを変更すると、ライセンスは適用されなくなります。

新しいPC名（ホスト名）でライセンスファイルを作成しインストールする必要があります。

ライセンス

以下のライセンスファイルがインストールされています。ライセンスファイルを追加するには、[ライセンスの追加]をクリックしてください。ライセンスの詳細を表示するには、[ライセンスの表示]をクリックしてください。ライセンスファイルを削除するには、ライセンスファイルを選択し、[ライセンスの削除]をクリックしてください。スタートアップライセンスに戻すには、すべてのインストールされているライセンスファイルを削除してください。

ファイル

ファイル名	ホスト	MAC アドレス	ステータス
ANY_20161231.lic	this_host	f0921cdcee17	無効

指定したフォルダーに インストールファイルをコピーして インストールする

この手順が完了すると、ネットワーク共有からインストールを実行できます。

- 1 インストーラの【プラン】画面で、サイドバーメニューから【インストール】を選択します。
- 2 【ネットワーク共有からのインストール準備】を選択します。
- 3 【ネットワーク共有】画面で、ディレクトリを参照し、以下の手順で出力先フォルダーを作成します。

注記

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こす可能性があるため、サポートしていません。

- a 3つのドットのあるボタンを選択します。
 - b フォルダーを作成するディレクトリに移動します。
 - c 【新しいフォルダーの作成】を選択します。
 - d フォルダー名を入力します。
 - e 【OK】を選択します。システムが【ネットワーク共有】画面に戻り、パスが表示されます。
 - f 【開始】を選択します。
- 4 処理が完了したら、ファイルをローカルドライブにコピーするか、ネットワークドライブのロケーションを割り当てます。
 - 5 アプリケーションを閉じて、作成したディレクトリとフォルダーに移動します。フォルダーを開きます。
 - 6 Disk 1 フォルダーを選択し、Setup.bat を実行してアプリケーションを起動します。
インストーラの【プラン】画面が表示されます。

パブリックフォルダーへのショートカットの追加

デフォルトでは、マスターメソッド、シーケンステンプレート、レポートテンプレート、生データなどのユーザーデータは、パブリックのドキュメントフォルダー $C:\text{ユーザー}\backslash\text{パブリック}\backslash\text{パブリックのドキュメント}\backslash\text{ChemStation}$ にあります。このフォルダーはインストール時に定義します。システムは Windows [スタート] メニューの **【機器データ】** から定義されたフォルダーへのショートカットを作成します。

Windows 7 では、パブリックのドキュメントへのショートカットは Windows エクスプローラーにあります。

Windows 10 では、Windows エクスプローラーの構造が異なります。そのフォルダーに容易にアクセスしたい場合は、機器データフォルダーを [スタート] メニューにピン留めすることをお勧めします。

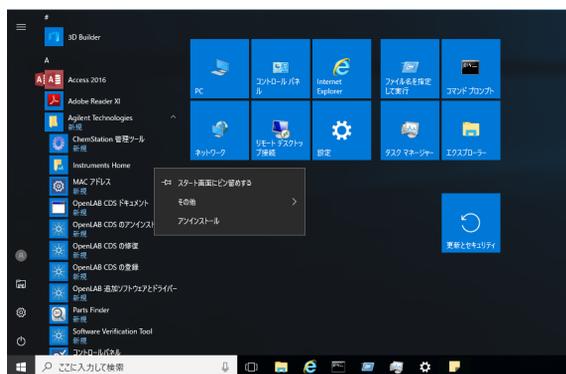


図 3 Windows 10 の Windows [スタート] メニュー

- 1 [スタート] メニューの **【機器データ】** ショートカットへ移動します。
- 2 アイコンを右クリックし、**【スタートにピン留めする】** を選択します。

5

ライセンス

OpenLab ライセンスについて	63
ライセンスタイプ	63
ライセンスファイル	64
ライセンスの取得	65
SubscribeNet でのライセンスの取得	65
ライセンスを入手するためのその他の方法	67
ライセンスのインストール	69

この章では、ライセンスを取得してインストールする方法に関する情報を記載しています。

OpenLab ライセンスについて

ライセンスタイプ

ライセンスファイルは、製品、機器およびアドオンライセンス（またはアクティベーションキー）のコレクションであり、OpenLab CDS システムにインストールされます。

ライセンスファイル内のライセンスまたはアクティベーションキーは、共有またはカウントのいずれかになります。

- 共有ライセンス – システムコンピューターおよびその他のコンポーネントでは、共有、またはアドオンライセンスを使用できます。これは、コアライセンスを共有しているためです。
- カウントライセンス – このライセンスは、OpenLab CDS ChemStation Edition のフローティングライセンス方針の一部であり、どのコンポーネントにも恒久的に割り当てられるものではありませんその代わりに、AIC および機器などのコンポーネントが起動している間、これらに自動的に割り当てられます。このライセンスは、コンポーネントを切断したときに自動的に返却されます。ライセンス管理プログラムでは、ライセンスの発行や取得を管理します。

この場合は、コンポーネントが実行中の場合のみライセンスが使用されません。インストールする各コンポーネントにではなく、同時に実行するすべてのコンポーネントに十分な数だけのライセンスを購入すればよいこととなります。

システムのスタートアップライセンスでは、インストール後 60 日間 OpenLab CDS を実行できます。60 日の期間以降にデータシステムソフトウェアを実行するためには、ファイナルライセンスファイルをインストールする必要があります。

ライセンスファイル

ライセンスファイルには、お客様のソフトウェアライセンスが含まれています。このファイルはワークステーションにインストールされます。ライセンスファイルはこのコンピュータに固定されており、SubscribeNet でライセンスを再作成しないと別のワークステーションに移動することはできません。

ライセンスファイルの情報は、お使いのシステムで同時に使用可能な機器およびその他のオプションの数が定義されます。

ライセンスを維持管理する最も効率的な方法は、インターネットを使用することです。

ライセンスの取得

SubscribeNet でのライセンスの取得

以下の手順を使用して、ライセンスを作成およびダウンロードしてください。インターネットにアクセスできない場合は、「[ライセンスを入手するためのその他の方法](#)」 67 ページのセクションを参照してください。

SubscribeNet にまだ登録していないユーザーの場合は、[\[新規ユーザー\]](#) セクションから行ってください。

SubscribeNet に登録済みの場合は、[\[SubscribeNet で登録済みのユーザー\]](#) セクションを参照してください。

必須要件

製品用のファイナルライセンスの作成、ダウンロードおよびインストールを行うには、以下が必要です。

- Software Entitlement Certificate が入った薄紫色の封筒で提供される認証コードラベル。

製品用に薄紫色の封筒を受け取っていない場合、販売店または弊社のサポート窓口にお問い合わせください。

- Software Entitlement Certificate に記載されている SubscribeNet の URL。
- コントロールパネルがインストールされているコンピューターのホスト名。
- MAC アドレス。

OpenLab CDS ChemStation Edition がインストール済みのコンピューターから MAC アドレスを取得するには、コントロールパネルを開き、[\[管理\]](#) > [\[ライセンス\]](#) セクションを参照してください。 [\[MAC アドレスのコピー\]](#) または [\[MAC アドレスの保存\]](#) から、ライセンス作成のための MAC アドレスを入手します。

作業中に、ライセンスサーバーの MAC アドレスを入力する必要があります。ワークステーションの場合は、ローカルコンピューターの MAC アドレスです。クライアント/サーバーシステムの場合は、サーバーの MAC アドレスになります。

注記

ライセンスをインストールした後でコンピューター名またはドメインリファレンスに変更された場合、ライセンスを削除してください。新しいライセンスを SubscribeNet で作成し、ダウンロード、およびインストールする必要があります。

注記

ライセンス作成時に使用した MAC アドレスを持つネットワークアダプタがマシンから外されると、お使いのライセンスは有効ではなくなります。新しいライセンスは、ライセンスサーバー上で現在利用可能な MAC アドレスを使用して作成する必要があります。

新規ユーザー

- 1 <https://agilent.subscribenet.com/control/agil/AgilRegisterToAccount> にアクセスして、SubscribeNet で製品を登録してください。
- 2 登録ページでは、[Authorization Code] と [Profile Information] を入力します（必須入力のフィールドにはアスタリスク（*）の印が付いています）。
ここで入力する電子メールアドレスが、ログイン ID になります。
- 3 **[Submit]** をクリックします。アカウント名が作成されると、それが表示されます。
SubscribeNet からお客様に、ログイン ID とパスワードが記載された、よろこ電子メールが送信されます。
- 4 ログイン ID とパスワードで SubscribeNet にログインします。
ログインすると、オンラインのユーザーマニュアルリンクを使用して、質問などに対するヘルプにアクセスすることができます。
- 5 左側のナビゲーションバーから、**[Generate or View licenses]** を選択します。
- 6 新規にライセンスを作成するメッセージが表示されたらそれに従います。
コンピューターの HOST NAME (ホスト名) を入力するよう要求されます。入力するホスト名は、コントロールパネルが実行されているコンピューターのネットワーク名と同一にしてください。入力するホスト名には、DNS サフィックス (**domain.com**) リファレンスを含めないでください。
- 7 ライセンスが作成されたら、詳細を表示して、**[Download License File]** をクリックします。お使いのコンピュータおよびバックアップロケーション（ポータブル記憶装置など）にライセンスファイルを保存します。
ライセンスファイルの再作成や、新規承認コードの追加、またはシステムへのライセンス追加作成のために、Agilent SubscribeNet サイトを再び訪れる際に、ログイン ID とパスワードを使用します。

SubscribeNet で登録済みのユーザー

- 1 SubscribeNet アカウントがすでにある場合は、<https://agilent.subscribenet.com/> を使用します。

SubscribeNet パスワードが不明な場合は

<https://agilent.subscribenet.com/control/agil/password> で再発行手続きを行ってください。

- 2 複数のアカウントがある場合は、Authorization Code（認証コード）に関連している SubscriberNet アカウントを選択します。
- 3 SubscribeNet のナビゲーションウィンドウから、**[Register Authorization Code]** を選択します。
このようにして、新しい Authorization Code を入力し、新しいライセンスを使用できるようにします。
- 4 この前に記載されている手順（「新規ユーザー」）のステップ 5 から 7 に従い、新しいライセンスの**作成または表示**を行います。

ライセンスを入手するためのその他の方法

ライセンスを作成できない場合、お近くの Agilent サポートオフィスにお問い合わせください。担当者が OpenLab CDS ライセンス申請書を送信する方法をお伝えします。

オフラインライセンス

お客様のラボでインターネット接続が利用できない場合：

お客様自身またはローカルオンサイトサービスエンジニアが必要な情報を収集し、Agilent がお客様のためにライセンスアカウントを作成できるようになります。電話でのサポートについては、販売・サービスの電話番号までお問い合わせください。連絡先情報については、「付録」を参照してください。

Agilent ライセンスサポートに必要な顧客情報：

お客様の代理でライセンスアカウントを作成する場合は、次の情報を Agilent に提出する必要があります。

1 アカウント情報：

アカウント名は、カンマで区切った会社名と実験室名になります。ここで提供される社員情報は、必要に応じて、システムへの今後のアクセスのために、お客様のアカウントの最初の管理者を指定するために使用されます。迅速なサービスをご提供できるよう、Agilent 販売・サービスセンターにご連絡いただく前に、次の情報を用意してください。

- 会社名
- 実験室/部門名

- 名
- 姓
- 電子メールアドレス
- 役職名
- 電話番号
- 国名、都道府県名を含めた住所

2 Authorization Code:

Authorization Code は、薄紫色の封筒に入っているラベルに記載された英数字のコードです。複数のコードを受け取られた場合は、ご注文いただいたライセンスをすべてお客様のアカウントに付与できるよう、すべてのコードをご提示ください。

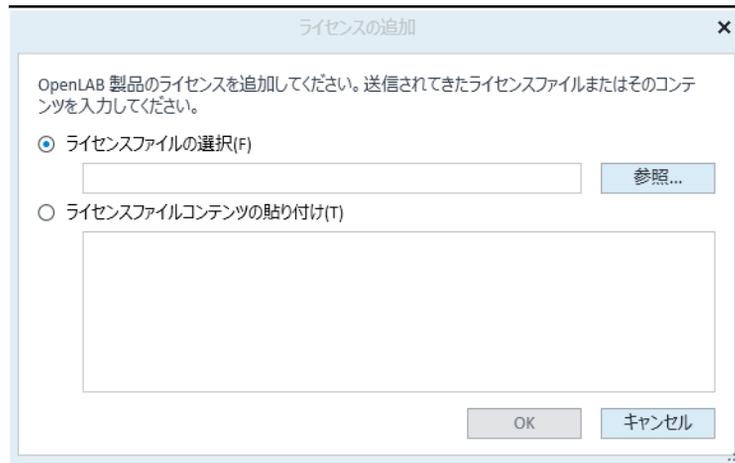
3 ライセンスの取得：

上記の情報をご提供いただいた後、Agilent はお客様の代理で SubscriberNet 経由でライセンスを生成します。ライセンスファイルは、発送先アドレスに送付されるか（CD で）、または FSE が直接お届けします（通常は USB メディアを使用）。ライセンスを受け取ったら、次のセクション「ライセンスのインストール」に従って CDS システムでライセンスのインストールを行ってください。

ライセンスのインストール

ライセンスはコントロールパネルを使用してシステムに追加する必要があります。

- 1 デスクトップの **【コントロールパネル】** ショートカットをダブルクリックするか、**【スタート】** > **【すべてのプログラム】** > **【Agilent Technologies】** > **【OpenLab Shared Services】** > **【コントロールパネル】** の順に選択します。
- 2 **【管理】** > **【ライセンス】** の順に選択します。
- 3 リボン内の **【ライセンスの追加】**  をクリックします。



- 4 次のようにライセンスのインストールを選択します。
 - ・ **【ライセンスファイルの選択】** オプションを使用して、SubscribeNet のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイル (.lic) を参照して開きます。
 - ・ **【ライセンスファイルコンテンツの貼り付け】** オプションを選択し、受信したテキストファイルのライセンステキストを、所定のフィールドにコピーします。
- 5 **【OK】** をクリックします。

コントロールパネルの **【管理】** インターフェイスでは、インストールしたライセンスのステータスが表示されます。

6

ChemStation エディション C.01.10 へのアップグレード

アップグレードの計画	71
クラシック機器ドライバーの RC.NET への変換	74
ライセンスアップグレード	77
アップグレード済みライセンスファイルの取得	77
システムへのアップグレード済みライセンスファイルの追加	78
ワークステーションのアップグレード	80

この章では、ChemStation C.01.07 SR3 以降からのアップグレードについて説明します。これより前の ChemStation リビジョンからアップグレードする場合は、最初に C.01.07 SR3 にアップグレードしてください。ChemStation A.0x または B.0x からのアップグレードについては、移行ガイド (CDS_CS-data-Migration.pdf) を参照してください。

アップグレードの計画

アップグレードウィザードを使用したアップグレードは ChemStation **C.01.07 SR3 以降**でサポートされています。古い ChemStation リビジョンまたは OpenLab Control Panel コンポーネントは、最初に別の手順で C.01.07 SR3 以降にアップグレードしてください。

C.01.07 SR3 からアップグレードする場合は、OpenLab Control Panel コンポーネントリビジョン 2.1 を使用していることを確認してください。このバージョンは ChemStation C.01.07 SR3 に含まれています。次のように表示される場合は、正しい Control Panel バージョンを使用しています。



図 4 Control Panel リビジョン 2.1 のレイアウト

C.01.10 は **Windows 7 SP1 64 ビット**または **Windows 10** でサポートされています。既存の ChemStation ワークステーションでの Windows 7 または 8.1 から Windows 10 へのインプレースでのアップグレードはサポートされていません。システムをアップグレードする前に、Windows コンフィグレーションがすべての要件を満たしていることを確認してください。「[「PCの準備」7ページ](#)」を参照してください。

OpenLab CDS ChemStation Edition は、Agilent 5890 GC 機器をコントロールできません。5890 GC を使用する場合は、C.01.10 にアップグレードしないでください。

M8370AA OpenLab Data Analysis アドオンはサポートされなくなりました。マニュアルでアンインストールする必要があります。

ADF Export に関連する機能は、ChemStation リビジョン C.01.10 以降でアドオンとして使用可能です。最新バージョンを使用するには、ADFExport アドオンを別個にインストールしてください（[「追加ソフトウェアとドライバーのインストール」53ページ](#)を参照）。ChemStation C.01.09 には ADF Export が搭載されています。ChemStation C.01.09 をアップグレードする前に、必ず ChemStation リビジョン C.01.10 に最新の ADF Export アドオンをインストールして、ADF Export を最新の状態にしてください。

セキュアファイル I/O で ChemStation ファイルを保護している場合、セキュアファイル I/O を一時的に無効にする必要があります。

現在インストールされている ChemStation エディションのリビジョンによって、アップグレード手順が異なります。

- **旧型の OpenLab Control Panel を使用した C.01.07 SR3 または SR4**

OpenLab Control Panel は引き続き以下のように表示される場合があります。この場合は、Control Panel を別個に更新してください。その後で C.01.07 SR3 からのアップグレードの説明に従って続行してください。



図 5 旧型の OpenLab Control Panel

コントロールパネルをアップグレードするには：インストールウィザードを実行します。[メンテナンス] タブの [OpenLab Control Panel のアップグレード] をクリックします。ウィザードに従います。

- **C.01.07 SR2 まで、C.01.06、C.01.05**

M8370AA OpenLab CDS データ解析アドオンがある場合、Microsoft コントロールパネルを使用してアンインストールしてください。

C.01.07 SR3 アップグレードウィザードを実行します。詳細については、C.01.07 SR3 のインストールガイドを参照してください。

お使いのシステムが G7102A、G4261A/B または G4260A/B の ELSD ドライバーを使用している場合、ReleaseNotes for ELSD_RC.NETDriver を参照し、最新バージョンへアップグレードしてください。最新のバージョンは、インストールメディアの Disk3¥Docs¥en¥Manuals フォルダにあります。

- **C.01.04 ~ C.01.01**

- a 古い ChemStation をアンインストールします。
- b 特定のドライバーまたはアドオンをアンインストールします。
以下のドライバーまたはアドオンのいずれかがシステムにコンフィグレーションされているときは、Microsoft コントロールパネルからアンインストールしてください：
 - ELSD (G7102A、G4261A/Bまたは G4260A/B) 。
ELSD ドライバーは、別のインストーラから提供されています。
 - バージョン 3.4.2 よりも前の ChemStation 用 Agilent Cirrus GPC ソフトウェア (G7818A) は、最初に Cirrus 運転時適格性評価をアンインストールしてから Cirrus をアンインストールしてください。
Cirrus アドオンのバージョン 3.4.2 には、ChemStation C.01.08 が必要です。
 - M8370AA OpenLab CDS データ解析アドオン。
- c C.01.10 をインストールします。

- **A.0x または B.0x**

ChemStation A.0x または B.0x のアップグレードについては、移行ガイド (CDS_CS-data-Migration.pdf) を参照してください。

LC/MS 機器ドライバーを除き、クラシック機器ドライバーはサポートされません。アップグレードの前に、該当する機器およびメソッドを RC.NET ドライバーに変換することを推奨します。（「クラシック機器ドライバーの RC.NET への変換」 74 ページを参照）。

クラシック機器ドライバーの RC.NET への変換

C.01.10 では、RC.NET ドライバーのみ使用可能です（MSD 機器ドライバーを除きます）。クラシックドライバーを使用している機器は、RC.net ドライバーを使用するよう再コンフィグレーションする必要があります。C.01.10 へアップグレードする前に行うことを推奨します。

どの機器がクラシックドライバーを使用しているかを確認するには、OpenLab Control Panel へ移動し、機器を選択します。リボンから **【機器コンフィグレーション】** を選択します。 **【クラシックドライバーを使用】** チェックボックスがオンになっている場合、その機器はクラシックドライバーを使用しています。以下の手順を実行して、RC.NETを使用するよう機器を再コンフィグレーションします。

- 1 各クラシックドライバー機器の IP アドレスを記録してください。
- 2 他のフォルダーにメソッドとデータのバックアップがあることを確認してください。
- 3 念のために、クラシックドライバーのメソッド設定を印刷するか、メソッドリストをディスクに保存します。
- 4 機器を再コンフィグレーションするには、 **【OpenLab Control Panel】** 内の機器を選択してください。
- 5 リボンの **【機器コンフィグレーション】** をクリックします。
- 6 コンフィグレーションダイアログの **【クラシックドライバを使用】** チェックボックスをオフにします。



機器は、 **【選択したモジュール】** パネルから **【コンフィグレーション可能なモジュール】** パネルに移行します。

注記

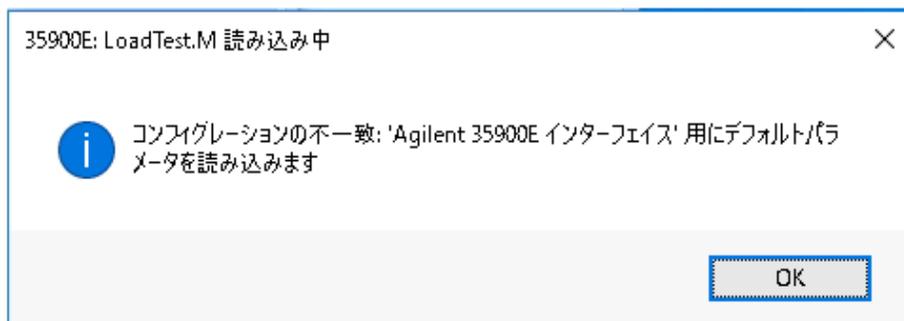
- 7 **【コンフィグレーション可能なモジュール】** パネルで機器を選択し、矢印をクリックして **【選択したモジュール】** パネルに再度機器を追加します。
- 現在の RC.NET ドライバーがまだ利用できない場合は、OpenLab CDS ChemStation をアップグレードする前にマニュアルでインストールする必要があります。
 - たとえば、35900E ADC RC.NET ドライバーは、以下の手順でインストールしてください。
 - a インストーラを実行します。
 - b インストールに進み、OpenLab 追加ソフトウェアとドライバーを開いてください。
 - c アドオンソフトウェアを指定するように要求されたら、インストールメディアの Disk3、Agilent 35900E RCNet フォルダを参照して、Agilent OpenLab CDS ChemStation 35900 AtoD Drivers.msi ファイルを選択してください。該当するソフトウェアがインストーラにリストされます。
 - d リストにあるソフトウェアを選択して、インストールを続行します。インストールが自動的に行われ、完了します。
- 8 **【選択したモジュール】** にある機器をダブルクリックして、記録してある IP アドレスを設定してください。 **【シリアル番号とファームウェアを取得】** をクリックして、対応するエントリを取得してください。

Agilent AD コンバータ (35900E) コンフィグレーション: 機器 2	
デバイス	
デバイス名:	Agilent 35900E インターフェイス
通信	
IPアドレス:	130.30.245.241
シリアル番号:	CN14240022
FWバージョン:	HP35900E, Rev E.02.04.40
シリアル番号とファームウェアを取得	

図 6 35900 コンフィグレーションの例

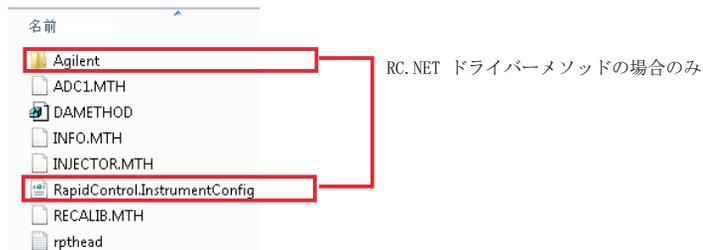
- 9 新たにコンフィグレーションした機器を起動します。

- 10 メソッドを RC.NET ドライバーに変換するには、メソッドを読み込んでください。以下のようなダイアログが開いたら、**[OK]** をクリックします。



メソッドをレビューし、更新が必要なければ、メソッドを保存するときに「RC.NET へ更新済み」などのコメントを追加します。

メソッドは読み込まれるときに RC.NET に変換されます。変換されたメソッドはディスクへ保存された後、Agilent フォルダと RapidControl.InstrumentConfig ファイルが追加されます。



ライセンスアップグレード

アップグレード済みライセンスファイルの取得

OpenLab CDS ChemStation Edition の次のバージョンへアップグレードする前に、SubscribeNet でライセンスをアップグレードする必要があります。コアソフトウェアを **アップグレードする前に** ワークステーションのライセンスをアップグレードすることを強くお勧めします。新しいライセンスなしでスタンドアロンワークステーションを新しいバージョンのコアソフトウェアにアップグレードした場合、そのワークステーションは、OpenLab コントロールパネルに新しいワークステーションライセンスが追加されるまでは機能しません。

SMA を契約している場合は、次の手順でライセンスをアップグレードできません。

- 1 以下のプロセスで、OpenLab CDS ChemStation Edition がインストールされているワークステーションのホスト名または MAC アドレスを SubscribeNet に入力するよう要求されます。

ホスト名および MAC アドレスを取得するには、コントロールパネルを開き、**[管理] > [ライセンス]** セクションへ移動します。ホスト名を記録し、**[MAC アドレスのコピー]** または **[MAC アドレスの保存]** 機能を使用して MAC アドレスを取得します。

- 2 Agilent Electronic Software and License Delivery (<https://agilent.subscribenet.com/>) にログインします。
- 3 **[Manage License by Host]** に移動します。 **[Host ID]** フィールドで、事前に確認した MAC アドレスを入力し、 **[Search]** をクリックします。

Software	Electronic Software and License Delivery
Product List	Manage Licenses by Host
Product Search	Manage Licenses by Host provides a convenient way to upgrade or return all licenses for a license server. For nodelocked license Hosts, licenses can only be returned as upgrades do not apply.
Entitlements	Please select a host by entering the Host ID or Host Name in its search field, or select a host from the pull-down list. You can use * as a wildcard value.
Licenses	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>Host ID</p> <input type="text"/></div> <div> <p>What is my Host ID?</p></div> </div>
Register Authorization Code	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>Host Name</p> <input type="text"/></div> </div>
Generate or View Licenses	<input type="button" value="Search"/>
View Licenses by Host	
Manage Licenses by Host	
Administration	
Account Members	
Change Password	

該当するホスト名が表示されない場合、複数の SubscribeNet アカウントでライセンスを管理している可能性があります。これらのアカウントにログインして、ワークステーションライセンスをアップグレードする必要があります。

- 4 ライセンスをアップグレードする資格がある場合、**[Upgrade All]** ボタンが表示されます。これが表示されないときは、Agilent の営業担当者にご連絡いただき、ソフトウェアメンテナンス契約（「[営業およびサポートの問い合わせ先](#)」90 ページを参照）を更新する必要があります。アップグレードライセンスを作成するときは、**[Generate]** ボタンをクリックしてください。

- 5 **Upgrade All Licenses for License Host** ページで、データを見直し、**[Upgrade All]** をクリックして確定します。

これによりライセンスファイルが最新バージョンにアップグレードされます。SubscribeNet からお客様に、新しいライセンスファイルの添付された電子メールが送信されます。

- 6 システムに新しいライセンスファイルを追加します（「[システムへのアップグレード済みライセンスファイルの追加](#)」78 ページを参照）。

複数のスタンドアロンワークステーションを使用している場合、各ワークステーションでこの手順を繰り返します。

各ワークステーションの MAC アドレスがファイル名であることにご注意ください。これはワークステーションのコントロールパネルでインポートするライセンスファイルを正しく特定できるようにするためです。

システムへのアップグレード済みライセンスファイルの追加

追加の機器コントロールやクライアントライセンスなど、新しいオプションをご購入いただき、SubscribeNet でライセンスを再作成した場合には、アップグレードライセンスファイルをシステムに再適用する必要があります。

- 1 ライセンスをインストールしたいシステムに接続されているマシンから、コントロールパネルを起動します。
- 2 **[管理]** > **[ライセンス]** の順に選択します。
- 3 リボン内の **[ライセンスの削除]**  をクリックします。
- 4 リボン内の **[ライセンスの追加]**  をクリックします。

- 5 SubscribeNet のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイルを参照して開きます。
- 6 以下の Windows サービスを再起動します。
 - **Agilent OpenLab License Server**
 - **Agilent OpenLab Licensing Support**

ワークステーションのアップグレード

必須要件

OpenLab CDS ChemStation Edition リビジョン C.01.07 SR3 以降を使用している。古いリビジョンは最初に別の手順で C.01.07 SR3 にアップグレードする必要があります。

AIC およびネットワークワークステーションの場合：アップグレード中に機器のカラムテーブルを維持するには、既存の各機器フォルダー（C:\ProgramData\Agilent Technologies\ChemStation\1\、C:\ProgramData\Agilent Technologies\ChemStation\2\ など）へ移動し、**Config.reg** という名前のファイル名を **Config.bak** に変更します。この手順は、LC カラムタグを使用して LC カラム情報を保存する場合や、GC カラムインジェクションカウントを使用しない場合は**不要**です。

- 1 セキュアファイル I/O でフォルダーを保護している場合：アップグレード中はセキュアファイル I/O を無効にします。
 - a すべての ChemStation セッションをシャットダウンします。
 - b **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Agilent Technologies]** > **[ChemStation 管理ツール]** をクリックして、ChemStation 管理ツールを開きます。
 - c ChemStation 管理ツールの **[セキュアファイル I/O を有効]** チェックボックスをオフにします。
- 2 現在のバージョンのインストールに使用したのと同じメディアタイプ（USB やネットワーク共有など）からインストーラを実行します。
- 3 インストーラの **[プラン]** 画面から、**[インストール]** 画面に切り替えます。
- 4 **[OpenLab CDS ChemStation]** を選択します。

OpenLab CDS ChemStation Edition がすでにインストールされているため、アップグレードウィザードが自動的に開きます。
- 5 ワークステーションライセンスをアップグレードする必要があります。「**アップグレード済みライセンスファイルの取得**」77 ページを参照してください。

ライセンスがアップグレード済みであることを確認してから、**[次へ]** をクリックして先に進みます。
- 6 **[規約に同意します]** を選択します。この条件に同意しないとアップグレードを開始できません。**[次へ]** をクリックします。

- 7 認証プロバイダがコンフィグレーションしてある場合：[登録用の **OpenLab Shared Services 設定**] 画面で、システム管理権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。[次へ] をクリックします。
- 8 アップグレードウィザードの [サマリ] 画面に、アップグレード対象のコンポーネントのリストが表示されます。[開始] をクリックして、アップグレードを進めます。
アップグレード中にエラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されます。
- 9 [完了] を選択し、アップグレードウィザードを終了します。
- 10 アップグレードした後、**ChemStation 管理ツール**の設定がアップグレード前の元のシステムの設定と一致していることを確認してください。
- 11 アップグレード完了後に、再度セキュアファイル I/O を有効にします。
 - a [スタート] > [すべてのプログラム] > [Agilent Technologies] > [ChemStation 管理ツール] をクリックして、ChemStation 管理ツールを開きます。
 - b ChemStation 管理ツールの [セキュアファイル IO を有効] チェックボックスをオンにします。

リビジョン C.01.08 以降のインストールでは、コントロールパネルのレイアウトがアップグレードされています。新しいユーザーインターフェイスを以下の図に示しています。



図 7 コントロールパネル ユーザーインターフェイス

既存の機器コンフィグレーションは、アップグレードの後も変更せずに残すことができます。

注記

クラシックドライバーは ChemStation C.01.08 以降ではサポートされていません。詳細は、「クラシック機器ドライバーの RC.NET への変換」74 ページを参照してください。

7

ソフトウェアのアンインストール

アンインストールについて 83

OpenLab CDS アンインストールウィザードの実行 84

この章では、OpenLab のアンインストールウィザードを使用したアンインストールについての情報が書かれています。また、アンインストール後のタスクについても説明しています。このタスクは、同じコンピューターに ChemStation を再インストールする場合に必要です。

アンインストールについて

注記

インストーラを使ってインストールせずに、手動でインストールしたヘッドスペース、PAL、サードパーティドライバなどの追加ソフトウェアを OpenLab CDS ChemStation Edition をアンインストールする前に、Windows コントロールパネルから、アンインストールする必要があります。

インストールと同様、OpenLab CDS ChemStation Edition のアンインストールも OpenLab CDS ChemStation インストーラから自動的に実行できます。

インストーラは、同じユーザーインターフェイスを使用してすべての ChemStation コンフィグレーションのソフトウェアのアンインストールができる仕様になっています（スタンドアロンまたはネットワークワークステーション）。**【OpenLab のアンインストールウィザード】**は、インストーラの**【メンテナンス】**セクションにあります。アンインストールの手順が表示されます。

注記

OpenLab CDS ChemStation Edition をアンインストールする際には、Windows のアンインストールツールを使わないでください。

OpenLab CDS アンインストールウィザードの実行

- 1 **【スタート】** > **【すべてのプログラム】** > **【Agilent Technologies】** > **【OpenLab CDS のアンインストール】** の順に選択します。
【OpenLab アンインストールウィザード】 が開きます。
- 2 **【共有コンポーネント】** 画面で、**【ソフトウェアバリエーションのアンインストール】** および **【PostgreSQL のアンインストール】** チェックボックスをオンにします。
注記： OpenLab CDS ChemStation Edition を後に再インストールする場合には、Software Verification Tool をアンインストールする必要があります。
- 3 **【OpenLab CDS ChemStation コンポーネントのアンインストール】** の **【サマリ】** 画面には、アンインストールするコンポーネントのリストが表示されます。
- 4 **【開始】** を選択してアンインストールを開始します。
アンインストールを中止する場合は、**【キャンセル】** を選択します。設定を変更する場合は、**【戻る】** を選択します。
リストされているコンポーネントがすべて、順々に自動的にアンインストールされます。
- 5 アンインストールが完了したら、**【完了】** をクリックし、アンインストールウィザードを閉じます。

8

トラブルシューティング

ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション 86

この章では、トラブルシューティングのヒントをいくつか記載しています。

ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション

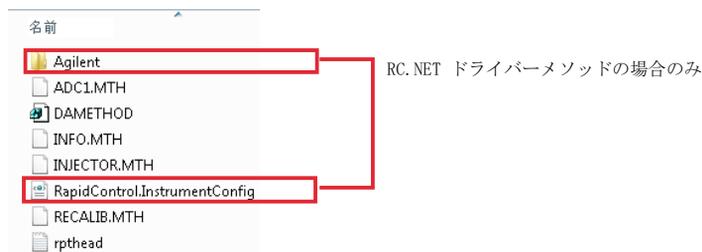
ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション

『OpenLab CDS ChemStation Edition アップグレードガイド』

(CDS_CS-Upgrade.pdf) で説明するドライバーの準備から推奨事項に従わなかった場合、ChemStation は起動しますが、クラシックドライバーを使用した機器は使用できなくなります。お使いの機器を再コンフィグレーションする必要がありますという通知を受けます。

クラシックドライバーの機器とメソッドは、自動的に RC.NET に更新されません。以下の手順を実行して、設定を更新してください。

クラシックメソッドが使用されているかどうか確認するには、Windows エクスプローラーへ移動し、対応するメソッドフォルダーのコンテンツを表示します。クラシックメソッドには、Agilent フォルダはありません。



- 1 各クラシックドライバー機器の IP アドレスを記録してください。
- 2 他のフォルダーにメソッドとデータのバックアップがあることを確認してください。
- 3 機器を再コンフィグレーションするには、**[OpenLab Control Panel]** 内の機器を選択してください。
- 4 リボンの **[機器コンフィグレーション]** をクリックします。
メッセージが表示され、お使いの機器を再コンフィグレーションするように求められます。
- 5 **[OK]** をクリックします。

[機器コンフィグレーション] パネルが開きます。**[クラシックドライバを使用]** チェックボックスは表示されなくなります。

トラブルシューティング

ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション

- 6 機器を更新して RC.net ドライバーを使用するには、**【コンフィグレーション可能なモジュール】** パネルで機器を選択し、矢印をクリックして **【選択したモジュール】** パネルに追加します。
- 7 IP アドレスを入力します。**35900E A/D 機器の場合**：**【シリアル番号とファームウェアを取得】** をクリックして、対応するエントリを取得してください。以下の例のように、35900E A/D 機器に正常に接続されると、シリアル番号とファームウェアバージョンが更新されます。

Agilent AD コンバータ (35900E) コンフィグレーション: 機器 2

デバイス

デバイス名: Agilent 35900E インターフェイス

通信

IPアドレス: 130.30.245.241

シリアル番号: CN14240022

FW バージョン: HP35900E, Rev E.02.04.40

シリアル番号とファームウェアを取得

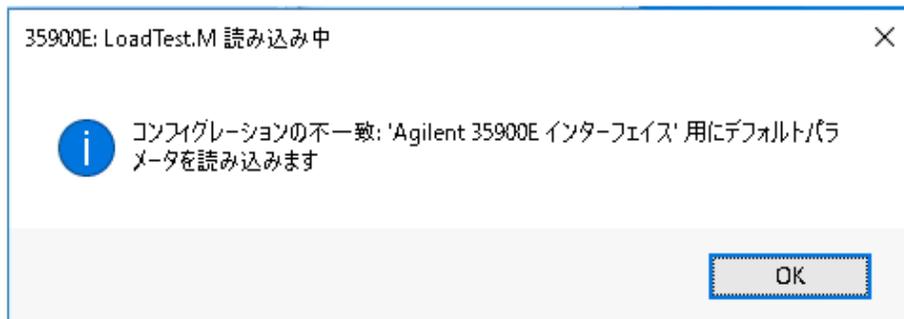
これで、機器の設定が完了します。

- 8 **【OK】** をクリックして機器コンフィグレーションを読み込みます。
- 9 **【スタートアップ時の読み込みメソッド】** オプションを指定し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - a 選択するオプションをユーザーに確認する
 - b **【機器にメソッドをダウンロード】** (スタートアップ時のオプションを選択して、クラシックドライバーの挙動に合わせてください。)
 - c 機器からメソッドをアップロード
 - d 機器から新規メソッド作成
- 10 **【OK】** をクリックして完了します。
- 11 新たにコンフィグレーションした機器を起動します。

トラブルシューティング

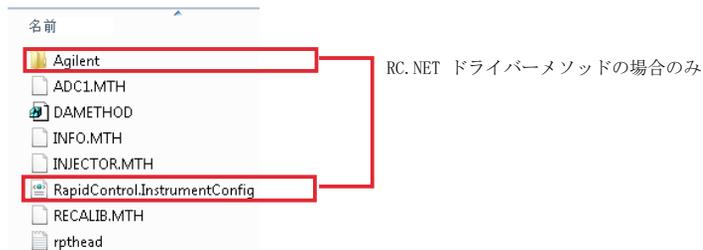
ChemStation C.01.08 以降へのアップグレード後にクラシックドライバーを使用した機器の再コンフィグレーション

- 12 メソッドを RC.NET ドライバーに変換するには、メソッドを読み込んでください。以下のようなダイアログが開いたら、**[OK]** をクリックします。



メソッドをレビューし、更新が必要なければ、メソッドを保存するときに「RC.NET へ更新済み」などのコメントを追加します。

メソッドは読み込まれるときに RC.NET に変換されます。変換されたメソッドはディスクへ保存された後、Agilent フォルダと RapidControl.InstrumentConfig ファイルが追加されます。





9

付録

営業およびサポートのお問い合わせ先 90

営業およびサポートのお問い合わせ先

営業およびサポートのお問い合わせ先については、以下のウェブサイトを確認してください。

<https://www.chem-agilent.com/contents.php?id=1004254>

本書の内容

本インストールガイドでは、Agilent OpenLab CDS ChemStation Edition ワークステーションのインストールについて説明しています。

www.agilent.com

© Agilent Technologies Inc. 2010-2020

Published in Germany
05/2020



部品番号: M8301-96092 Rev. D

